

雙雀菴冰壺輯撰

# 文久發句六百題

江都書肆

千鍾房  
金生堂  
發兌

叙



人誠於物則鬼神感之  
言志則人亦感之本邦有  
俳句猶漢土有詩也蕉翁  
之刻此句使不能為者動

使不能言者之不善感人  
也雙崔菴初宗為獲為侍  
統之正脈牙人令之巨匠也  
故受業於其門者頗為多  
子曩擇其句若干輯為冊

子名安政六百題今續以  
文名六百題讀之一精  
妙使人感歎而益益百  
萬言亦歸於誅一也  
誠能感人則鬼神亦不

感其於是字叙久久紀元  
辛酉十月尾稿子雪香樓  
淡雨苦雨之室

雪江笑多家



凡例

一 此書句集安政六百歌後編の題号も今一の草紙中  
通る番号更へ既文久の今日よもむらぬ世を志す年  
号を唱へんより近き方耳も少く易いんと書録の  
需も存しそ又六百題と六百傳りぬ  
一 天保年間より今余り著し句集七人明歌集安政六百  
百歌総林良枝集あり今又文久六百歌を撰むを以て  
句集の時代はく世のつら風調小針一編より又人々  
此歌類を何れをもを我れあはれのちより何れを  
宜しとせしむる歌も直ちも曲せしむる味も  
於骨をうごちたあへり

- 一 集中の表句を安政集より延文久より移す
- 一 叶菴より抄出せる或は法家の草紙又法集の在の中より採取ししもの多し
- 一 題を四季よつち乾坤植物虫類衣食神將公度故事と次を一部分類を集め見易きを定めて前後をよきたるものあり
- 一 同題のうち等類の句多く同題をいへり先作を以て後作の後集より抄出せるものあり
- 一 一歌一句を変化を志ししものあり

凡例一

- 一 句順は表紙先紙の語をく見ゆりの中より入るものを
- 一 出ると歌集の例に倣ふものあり
- 一 雅名は國分より先着よりいへり
- 一 古名は他邦より古名をいへり
- 一 同字同名のものは集中より國名を記す
- 一 朗詠の部は月雪花よ書信意きけり
- 一 附録は
- 一 羈旅詩影画漢名文送別留別編
- 一 答懐四述懐神祇探玄祝賀哀傷雜是

是るの如き人の如くしを撰る一助もも連考案  
多く阿しんまて

一 城一部六百歌とある中作をて歌数凡九百餘あり  
さして一唱人多し一とよむ終て書林の空をよま  
のせり六百歌と号を冠するに非ざる

文久紀元年 雨後月

菱花菴水菴

識

凡例二

集中人名

班位不序

山城梅通 芥舎有節 九起 漢節公成  
漁藻 頌水 赤南 祭魚 波同 文海 自長  
柗五 大老 拾山 謝風 玉骨 芦舟 五律  
奇泉 默池 大聚 雪蕭 為岬  
撰津 素屋 林曹 松隣 鼎左 隱兄 梅氏  
徐東 潮水 知風 公眠 鴉交 醒花 蘭操  
草雨 清雅 大岳 孝仙 月人 舉一 曲阜  
可大 嵩窟  
尾張 而後 梅裡 士前 李曠 月底 我竟

一清羽洲不  
退靜安二  
路三楓碎  
雨  
持石春松  
素水呈岬  
其岳高渚  
武藏一具  
由誓祖紹  
西馬松什  
萬古  
抱蒼為山  
卓郎遲流  
節之箕山  
山子  
建成子  
沾嶺子  
其山子  
尋載著陽  
不際甘  
茶  
許十又  
連之鳥吟  
拙誠恭我  
斜將  
見外香以  
完清在爾  
節子  
表之旌  
花海  
尾村波  
臨五休  
甚香  
雲  
嘉山  
永年  
尋香露  
心費手  
樹石  
芳字  
以  
來  
青  
栢  
世負  
華  
嘯  
素  
剛  
兩  
文  
東  
橋  
柯  
山  
樂  
山  
龜  
將  
以  
白  
社  
之  
龜  
水  
蓮  
之  
水  
哺  
生  
水

巨月得  
暮了知  
花園右  
眠陽秋  
松叟  
宋  
曉  
血  
森  
後  
際  
羽  
雪  
白  
外  
得  
我  
心  
之  
之  
野  
井  
之  
之  
旌  
彩  
甫  
惊  
父  
宇  
山  
弘  
湖  
芦  
城  
為  
少  
明  
水  
得  
水  
字  
甫  
草  
極  
号  
友  
有  
心  
右  
年  
然  
之  
表  
村  
由  
地  
長  
宜  
小  
玄  
四  
端  
稽  
濤  
卜  
早  
程  
市  
之  
之  
甘  
志  
花  
界  
松  
傍  
冠  
岳  
翠  
岳  
箕  
山  
一  
表  
香  
沙  
菊  
二  
表  
秀  
菊  
雅  
子  
金  
精  
子  
連  
理  
子  
葉  
葉  
子  
搖  
蕪  
子  
薩  
高  
子  
已  
恨  
漁  
子  
子  
夢  
和  
子  
表  
山  
子  
花  
曉  
子  
秀  
子  
子  
湖  
柳  
成  
他  
菊  
枝  
子  
共  
破  
子  
子  
花  
子  
飲  
江  
菱  
樹  
風  
月  
嘉  
穀  
晚  
翠  
秀  
薩  
翠  
二  
靜  
江  
半  
愛  
梅  
新  
三  
積

白起梅笠小号墨芳留未松顶胡崖  
 留我山屏莞雨田且雪年喜松信兆  
 藁雅仙月梅悦多岳湖舟叶太嘉集  
 抱中来子一两如拙雪躬携下旅砧  
 露光其翠不鹤嘉私负表梅迳永核  
 青之饮席方中柳两生贺如泉年言  
 陈良冰壹逸倒溪氛天由五反  
 苑外秋晓乙丑山雪文雅潮月正何  
 青圃泰山素眠茶晓不二丸香松四左  
 真寿真珠月大梅纸雪朗葵海海路  
 不由闲和文里州知佳变雪英市笠

八二

青莪清彦麦秀素心松翠青菜精之  
 其象三草来逸东葛梅枝秀考薄益  
 接象一芳在正梅巢枝履嘉子女竹友  
 东扇车迹薰海破月既月媚月素明  
 钱友柳佳玉山绿塘真福是雅雅颀  
 鲁雪波月东雪萝竟无好不老火卓  
 羲正羲同水弱羽雪里玉西笑兼月  
 三檐三九不谶风眠卷月楼水庭彦  
 角山柳圃梅山一杯茶交在月八九雅  
 波洞邗水波翠秋里溪水心经里泉  
 相左冰山兔雪迹丑及山素保岩松



夕遊龜巖孝月友之一枝如翠萬為  
在里中夢智秋文志松夢而月光輝  
保內毅之碩眠其勢青耕如冰漆哉  
雲川遊踪步月吾月各川古鼎波古  
萬之雲介龜成如仙榮堂一之晃朗  
吟囊有書案義妻玉百寶如編南交  
**下總** 曾玩月杵十條分賞至清玉碩  
雪忘墨楊旭氣一亭士明表承仁里  
壽山三郎葉弓花月卜外孤眠庭花  
猶太司玩斗表深為可事為實廣竹南  
以兄之誠貞忠直哉呂山宗水雙圃

人二

常陸 晴河 一馬 正 旗 淇 一 越 山 永 夢  
惟 聲 池 雀 峰 雲 **安房** 岳 雷 占 魁 欣 月  
上 總 中 儀 奏 松 柏 聚 兩 相 詠 月 五 嶺  
一 川 松 眠 宋 苑 冰 洲 芝 薰 方 亦 文 耕  
李 成 其 光 風 吹 丈 坡 蘭 圃 露 香 其 岳  
米 哉 宋 有 不 候 壺 長 曉 月 川 遊 兔 月  
常 陸 晴 河 一 馬 正 旗 淇 一 越 山 永 夢  
換 雪 南 水 樵 月 笑 月 壽 仙 一 蓑 菱 岳  
吐 雪 靜 江 岩 井 一 省 一 眺 東 廊 水 月  
風 交 完 里 在 雲 再 峨 其 岳 岩 於 女 巽 山

後凋一笑有政仙芝  
 相江作葉上野深  
 不遠去外一為惟  
 半湖花旌旂旌水  
 乙瓢荒唱下野其  
 後袁思成子奕苑  
 葉欣種好東園成  
 松堂陸興多代女  
 葉史六槐梅月赤  
 茗玉山方徐蓮曲  
 壯山文紀妻為郭  
 文紀妻為郭吏作  
 鳩露中布石

人四

一宜之  
 如圃精容出羽  
 美取  
 常露  
 大古  
 久榮  
 雪山  
 甲斐  
 信濃  
 大莫

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 越後 | 乙良 | 兼山 | 爽史 | 市猿 | 特飛 | 清水 |
| 尤儀 | 子布 | 月昇 | 葉原 | 智輝 | 常晴 | 居  |
| 其東 | 若村 | 和夕 | 要居 | 扇古 | 古棠 | 翠龍 |
| 父常 | 吉朗 | 雪原 | 雲湖 | 二中 | 一得 | 志の |
| 竹文 | 五和 | 其山 | 中比 | 孝就 | 孫廣 | 靜游 |
| 素素 | 澤賦 | 佐渡 | 古古 | 越中 | 小常 | 從容 |
| 越前 | 夢里 | 加賀 | 松蓋 | 大夢 | 丹岩 | 德平 |
| 京出 | 之啓 | 能登 | の涼 | 羨濃 | 山士 | 牛嶋 |
| 飛驒 | 素毛 | 大和 | の煎 | 司水 | 紀伊 | 采那 |
| 舟舟 | 伊勢 | 崔波 | 五鈴 | 伊賀 | 書取 | 部岐 |
| 近江 | 帆道 | 九峰 | 乙也 | 三河 | 塞馬 | 完伍 |

人五

|    |    |    |    |    |     |    |
|----|----|----|----|----|-----|----|
| 蓬宇 | 善美 | 儿友 | 紫管 | 源花 | 確居  | 一菴 |
| 嵐生 | 速江 | 鳥岳 | 杜水 | 駿河 | 造山  | 月栖 |
| 碧山 | 九成 | 梅史 | 伊豆 | 士毅 | 松平  | 善家 |
| 東久 | 乙郎 | 石学 | 花光 | 梅安 | 淡山  | 梅溪 |
| 其致 | 吉林 | 善雪 | 翠依 | 斐山 | 嵐里  | 傳志 |
| 文雄 | 吉壽 | 如橋 | 澤岳 | 一菴 | 早乙女 | 井水 |
| 欽水 | 相模 | 立字 | 木難 | 竹山 | 乙成  | 布文 |
| 薰岱 | 旭松 | 水石 | 石合 | 標堂 | 如之  | 田岐 |
| 播磨 | 機若 | 丹後 | 南涯 | 石見 | 三学  | 一龍 |
| 讚岐 | 蔡丈 | 伊豫 | 葉圃 | 女菱 | 白尾  | 松舟 |
| 樺堂 | 其戎 | 阿波 | 麦舟 | 善保 | 庭の  | 葛河 |



茶葉  
松の皮  
馬茶  
つぎの  
おしの  
桐  
赤丁  
母子  
猫の  
おしの  
おしの  
おしの  
おしの

世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世

油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油

世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世

油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油

世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世

油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油

世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世

油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油

世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世

油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油

世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世

油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油

世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世

油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油  
油

世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世  
世











|                 |         |                |         |                |         |                |         |                |         |
|-----------------|---------|----------------|---------|----------------|---------|----------------|---------|----------------|---------|
| 神送<br>山三式<br>神集 | 世三<br>世 | 神<br>山三式<br>神集 | 世三<br>世 | 神<br>山三式<br>神集 | 世三<br>世 | 神<br>山三式<br>神集 | 世三<br>世 | 神<br>山三式<br>神集 | 世三<br>世 |
| 大崎の白            | 山三式     | 山三式            | 山三式     | 山三式            | 山三式     | 山三式            | 山三式     | 山三式            | 山三式     |
| 神集              | 神集      | 神集             | 神集      | 神集             | 神集      | 神集             | 神集      | 神集             | 神集      |
| 鬼やうん            | 除夜      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      |
| 餅搗              | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      |
| 餅搗              | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      |
| 餅搗              | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      |
| 餅搗              | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      | 餅搗             | 餅搗      |

文久發向六百款

春之部

維新發向六百款

元 日 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元  
 元日の元を春を春の起るんを元

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 元  | 二  | 幼  |  |
| 朝  | 日  | 務  |  |
| 元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく<br>元月の日もあやましく | 幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま | 素魚<br>有長<br>西馬<br>留我<br>由几<br>古棠<br>露衣<br>長宜<br>其言<br>静閑 |  |

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 幼  | 務  |  |  |
| 幼務   | 幼務   |  |  |
| 幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま | 幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま<br>幼務やふゆのたをま | 素魚<br>有長<br>西馬<br>留我<br>由几<br>古棠<br>露衣<br>長宜<br>其言<br>静閑 |  |

せんさかききあめつきや初物 山古  
 せうくよあさうらうあう初物 雲  
 水きくむきかあうし初物 呂山  
 古車の手あまうはう初物 葉圃  
 うききる何よたうん初物 真玉  
 侍障のきくめてうらう初物 水月  
 之 真うつやききようも人きあ 花海  
 んく眼うききあうん海と山 真芸  
 真えや管う小あも初物 在尔  
 多くあう明き真うつ世山うれ 血休  
 一やうまきうつ真めもくけい 其东

春

明の真 大甲やううつあきも 明の真 古 西馬  
 井車のききもももうの真 志山  
 様ううく様のききも 明の真 山  
 今朝の真 志きや二親ももも 阿都の真 素人  
 阿うう世一まの庭も 明の真 水囊  
 里も務浦も波うあけの真 雲光  
 戸の外やまう 明一人通り 甘露  
 今朝の真 志き一寐も眼のきやうく 阿都の真 真系  
 福ききあうんくも 阿都の真 許十

言 跡のこころをいふ余はよけきの春 春 岐 雄  
 暇よあそびの春—— 七 朝の春 七 朝 囊  
 日のうららかな 波 走つこのちうききる春 梅 葉  
 何れもそよ風—— 気 あ—— けきりの春 末 有  
 今日の春 遊ぶのを伝ふといふは 弟 少の春 比 囊  
 との果へ 風をけり—— そりふは春 水 倉  
 山代の春 山 代の春 乙 也  
 山 代の春 山 代の春 北 松  
 山 代の春 山 代の春 中 雲  
 四方は春 雲よまき 尾上のうらや 四方は春 崇 山  
 眼の涙をさすよまき せき 四方の春 末 章

春三

玉の春 山代の春 玉の春 春 一  
 赤 高や 葉の上のうら 玉はまゝる 玉 骨  
 尾の春 遊 草を匂を 漏りけり 尾の春 左 白  
 日此春 日の春よまき けり けり 日 茶  
 花の春 遊 人の春よまき けり けり 香 海  
 遊 草の春はけり ね ね 花の春 花 海  
 何れもそよ 風のうらや 赤—— 花の春 水  
 人の上 身りうらや けり 花の春 雲 山  
 何れもそよ 風のうらや 赤—— 花の春 雲 山  
 何れもそよ 風のうらや 赤—— 花の春 雲 山

朱を写して風もきくはしむの春  
 雪積り庭ををりてを那の春  
 寐ふおもねる用ふ一を那の春  
 人と肩ふくへ苗そよ花咲き  
 後梳り白ひもゆり一を那の春  
 知人の春くふそよを那の春  
 足さるやまやまの雪を那の春  
 あつそよと洗ひ若出ぬを花の春  
 素ん  
 佳候  
 玉頰  
 不由  
 欣江  
 風月  
 東塘

日能始

素ん  
 一とせよはりあふ名を日のをめ

素ん

昏

初空 初より花をくくあき日の出あ  
 ちせやのれ初空水ようのみり春  
 初空や春生枝もぞくぬを玉  
 初より花甲くむくおのうら新  
 ち伝忠や静よゆり枝の北く  
 初空よあう同や初より花をく  
 初空や春の深山も初より花をく  
 初空やぬ身よ日の春初日のれ  
 初より花の初より花の初より花  
 海山を大きくつるまを初より花  
 信く出るまの初より花の初より花

曾現  
 其奈  
 徐遠  
 雪山  
 芦海  
 素心  
 芳名  
 逃削  
 破る  
 真忠

初日

大舟の松一尾よ来た初日の出  
波能くくふと見し初日の出  
二見よあまのまじり初日の出  
岸の本川よ新ありな清甲の出  
乃よ見よ少の旗あり初日の出  
車よとやあり初日の出  
年 始 車よとやあり初日の出  
車始 車よとやあり初日の出  
年 終 車よとやあり初日の出  
車終 車よとやあり初日の出  
年 終 車よとやあり初日の出  
車終 車よとやあり初日の出

魚 藤 葛 櫻 梅 波 新 高 心 月 浪 峯 鳥 岬

春の初より春の終まで  
雪の初より雪の終まで  
河 菱 波 舟の初より舟の終まで  
舟の初より舟の終まで  
年 玉 車よとやあり初日の出  
年 玉 車よとやあり初日の出  
年 玉 車よとやあり初日の出  
年 玉 車よとやあり初日の出  
年 玉 車よとやあり初日の出

雪 舟 河 菱 波 年 玉 年 玉 年 玉 年 玉 年 玉

年の花 松引うぬぐちのふりあり 春のち 不二丸

初 露 ちんろよの春風も 秋よをたはしのまきし しの篇

とりにせめ此ちんろよのあり初 露 下 五

界の目能深をもおきし 初のちをみ 露 光

初の春比をもこのあり初のちをみ 池 輪

眼よ眺るここのあり初をみ 夕 遊

初の空をききし 志しき初をみ 茶 圃

初端まきし 磯の自ひやをみつ 露 一

初 夢 押ころへや初夢足もこのまれち 望 井

初夢や寝せる人を起さす 夢 葉 史

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 其 雲

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 波 洞

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 曲 儿

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 東 定

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 碩 水

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 下 素 山

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 芳 洲

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 山 古

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 丘 麓

初夢やをきれちんろをたはしのまきし 家 古



初芝居 しの記をもつて様々所のたつ芝居 龜將  
是より又江戸のそとあり 神芝居 水囊  
庭 寤 雪降よもそよのくらり 庭 寤 茶菓子

年 男 ちのら 痛りやあふく 年 男 多の女

美 水 美水やそのまもをき 美水より 男 川文  
落水やまや美水のちあせりの 為山

清もくめとあその水の大堰河 古 丈翠  
川の向よそのあそくぬ 男あり 壽載  
美水よあふくのたまきや 朝の皷 士教

そのあやとせもよきありの心あそ 雄首  
美水や隣 さいあふく 戸もあぬ 其の  
美水や玉川めき 一 星 外  
美水 海うんも年お庭や 初手水 立守

つれよきよはしのあふりはし 初手水 美芸  
初手水 初手水 志とく 初手水 麦高  
初降よせんる 朝の志とく 初手水 鳥石

初降 初降よせんる 朝の志とく 初手水 鳥石  
初降のめくもき 一 麦 相友  
初降のめくもき 一 麦 水囊  
舟の志とくもき 初降の志とく 初手水 歌高

元 方

以修やちりくくと木のうつく

業圃

種あまの森末草一 元方柳

末是

本のちやあまの元方をまきそ

公成

本をよく人考のまきそ元方の柳

外治

小一丁あまの元方のまきそ元方の柳

外治

門のまきそ元方のまきそ元方の柳

外治

元のまきそ元方のまきそ元方の柳

外治

柳のまきそ元方のまきそ元方の柳

外治

柳のまきそ元方のまきそ元方の柳

外治

柳のまきそ元方のまきそ元方の柳

外治

柳のまきそ元方のまきそ元方の柳

外治

傍り

|                  |    |
|------------------|----|
| 以修やちりくくと木のうつく    | 業圃 |
| 種あまの森末草一 元方柳     | 末是 |
| 本のちやあまの元方をまきそ    | 公成 |
| 本をよく人考のまきそ元方の柳   | 外治 |
| 小一丁あまの元方のまきそ元方の柳 | 外治 |
| 門のまきそ元方のまきそ元方の柳  | 外治 |
| 元のまきそ元方のまきそ元方の柳  | 外治 |
| 柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  | 外治 |
| 柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  | 外治 |
| 柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  | 外治 |
| 柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  | 外治 |
| 柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  | 外治 |
| 柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  | 外治 |

門 松 傍り

松のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳  
柳のまきそ元方のまきそ元方の柳

永年 祐之 西大 梅程 昔子 梅安 有秀 梅通 九起 此為

門松や海山の風此日の礼をよ  
 ころ松や舟のうらるるま正 角  
 門松よ雪のあけおのほくらりま  
 雲らしき人のまきり 門内松  
 松の内 仕合と俤 日るあし 松の丸  
 雪をふくも日わちのうし 松の丸  
 美餅 美をちよまきりて夜めのたまりは  
 鏡餅 ころ餅 心の老はらけりけり  
 鏡餅もちよまきりま娘ら  
 系鹿よるるころまのよのみ餅  
 福葉 福よるるや瑞雪を落つるま  
 茶圃  
 此囊  
 三交  
 芦川  
 平郎  
 法音  
 君美  
 梅程  
 月杵  
 此囊  
 喜松

福葉や門のうらり内の福ぬくき  
 少くもくくくくくくくくくくく  
 福よるるや只一足りふま吉くら  
 姉く葉のまきりては是も日のめくみ  
 福よるるや家よりのめぬ踏を海  
 掛 朝 け華朝や燐のよまのけ燈白し  
 魚朝やまきり人の眼よつくま  
 太 著 たちやまきりもまきり持ころら  
 而 著やおのしりの志ましま  
 雑 著 的くまきりてははくくくくくく  
 家くまきりてははくくくくくく  
 茶圃  
 此囊  
 三交  
 芦川  
 平郎  
 法音  
 君美  
 梅程  
 月杵  
 此囊  
 喜松



控

葦葉やあまのなる物よのぢり  
控やなまのなる物よのぢり

性業  
住隣

田作

田作の朝ももちのなる物よのぢり

梅通

小及原

磯原の朝ももちのなる物よのぢり

有花

出葉東

出葉東の朝ももちのなる物よのぢり

常晴

葩

葩の朝ももちのなる物よのぢり

常秋

喰

喰つゝやまのなる物よのぢり

性業

篠

篠の朝ももちのなる物よのぢり

梅左

福寿州

福寿州の朝ももちのなる物よのぢり

月人

長

長の朝ももちのなる物よのぢり

長宜

一

一の朝ももちのなる物よのぢり

一得

菓

菓の朝ももちのなる物よのぢり

菓欣

福

福の朝ももちのなる物よのぢり

福吉

梅

梅の朝ももちのなる物よのぢり

梅海

録のあり侍るやうき福壽軒 竹風

懸想文

よみあきこのあぢうを 懸想文 文種  
ふんくふきよむや 懸想文 佳受  
くくのいふふり 懸想文 波月  
兄こ人此あし 懸想文 文志  
祝のきく 漢語 翠山  
茶 万支やう侍りえくる 袖のり 下 而后  
鳥 追 存追の兄このあぢう 庵のり 下 蓬こ  
猿 引 猿引をよせしめ 庵のり 下 此白  
猿 廻 庵のり 下 割能部 庵のり 下 相雪

傀儡師 月つを懐きし 傀儡師 其末

破 廣号 庵のり 下 割能部 庵のり 下 相雪

婦 不きく や手宛の神 庵のり 下 割能部 庵のり 下 相雪

手 練 とめとあし 庵のり 下 割能部 庵のり 下 相雪

若羽子 けり 庵のり 下 割能部 庵のり 下 相雪

若衣初 庵のり 下 割能部 庵のり 下 相雪

丹 庵のり 下 割能部 庵のり 下 相雪

湯の湯よまを骨の魚そ美衣始  
 素淵  
 田へりる勢を足赤のら蛇をまめ  
 井文  
 一粒も物らまのましあを  
 水囊  
 たのりき美衣をへや弓を  
 祐之  
 掃 祐 ちきまめやま急なる物も  
 蓮く  
 緋 祐 赤のくせを  
 井鳩  
 松 雛子 襟を  
 葉紫子  
 深 祐 しきまめや  
 市笠  
 飛 開 花を  
 智秋  
 舟 紫祐 紫を  
 再戦  
 舟 紫祐 紫を  
 舟 紫祐 紫を

馬 紫祐 本を  
 徐東  
 書 祐 本を  
 葉崎  
 書 祐 本を  
 遊里  
 書 祐 本を  
 洪一  
 書 祐 本を  
 竹囊  
 紫 始 本を  
 杜永  
 書 始 本を  
 杜山  
 書 始 本を  
 梅左  
 福 引 本を  
 井 東  
 福 引 本を  
 井 東

寅引 寅引や若も仲男よ毒このる 波月  
 寅引や今を産さう赤帯しとて 菅橋  
 今年 穀入ふらまより今も出さく 至徳  
 初荷 里へ出ま初荷やを里も雪車の上 永年  
 松原を遊し東ふるも初荷うれ 家心  
 その初荷よてとととて 山古  
 舟のこ丘のこ暮る初荷うれ 智秋  
 買初 買初といふもまつりしを習油 魯雪  
 初荷 いろくや初荷いひをて 其教  
 三ヶ日 三ヶ日まや若物も方よとて 彼路  
 三ヶ日 三ヶ日まや若物も方よとて 嵐牛

▲春十四

初毒 初毒や古き遊しの暇もさする 由儀  
 三つ毒や麦踏てる居る 柳の居 家守  
 初毒のきやや女時よよ又 公成  
 酉月 酉月もふ新を名の宵寐う那 多代女  
 酉月もをやをうく 時高ねの年 梅程  
 酉月や先回のりさのまね たく 龜持  
 酉月の寐おきとや寝もいさたよき 素心  
 酉月やたふれ出集る気のつよみ 其家  
 酉月やあてをめい 目を雪ふをり 又種



正月も榮耀のまじき御座のち  
 雨にまよふ正月をあらはせたるを  
 正月や羽縁のこころき風のふく  
 正月わたす北の宿六時をゆき  
 正月をきくあちちのけしみの  
 正月をきくあちちのけしみの  
 正月やよつれ帯も里のふ利  
 正月をきくあちちのけしみの  
 正月をきくあちちのけしみの  
 正月をきくあちちのけしみの

東 山 古  
 梅 菜  
 雪 山  
 能 鳥  
 比 勢  
 唐 藤  
 赤 南  
 鳥 谷  
 杜 永  
 六 橋  
 泉

春十五

事のおもふ外にのちのちのまじ  
 少一降るもあつた月を  
 世の中北むつとるる月  
 太郎月 麦畑ふき里のついであり  
 人の日 人北日や北日きよのそ  
 人の日 人北日や北日きよのそ  
 人の日 人北日や北日きよのそ  
 人の日 人北日や北日きよのそ  
 人の日 人北日や北日きよのそ  
 人の日 人北日や北日きよのそ  
 人の日 人北日や北日きよのそ  
 人の日 人北日や北日きよのそ

其 製  
 菅 橋  
 陸 堂  
 松 夢  
 多 代 廿  
 鳥 橋  
 龍 崎  
 其 製  
 其 製  
 其 製  
 其 製



若くしよりうのふしく爆非うれ 七囊  
 左義長や人ふさうさう、麦もくけ 桑園  
 さ義も秋あふりまうり山の裾 梅菓  
 縹のささしーふや櫛のうへ 不二丸  
 縹のささしーふや櫛のうへ 又志  
 骨正月 寐さうや骨正月もさー 雨 抱巻  
 心養もあぬ正月のよあさうあ、 莞尔  
 はのささしや時月廿日のとさう汁 美田  
 帳 帳 帳ともらや時う手傳ふ膏の腰 蓬く  
 別 掛 鉤に板を崩もあさし別けけ 陳良

春十七

年たむ風よりまぐやけつりさあ 雪山  
 界の日は戦くや門の割けけ 一  
 本くさ嘆もさうりやー 別掛 一勢  
 餘 字 庭をのまをさうまふ餘字は 而后  
 傷せ未共田よのけさある餘字は 吾昔  
 帯端へ桂木板よ余字のあ、 時成  
 人の来て遊むあれも餘字のあ、 上津  
 春 寒 雪をいさよ夕風ささる春寒 隆安  
 春 風 舟あつるささるの空ささる春風 中凡  
 磯子のまや春ささる春のささる 古 万枝子

枇杷の華は花を吹や春の風  
 文海  
 春風や帝徳川の海は春の  
 文海  
 春風の葉はゆるゆる花の影  
 菅川  
 雪のある山はくくくや春の風  
 晴雅  
 相うたふる春の葉はくくや春の風  
 茶圃  
 春の月波はるる春の海は春の月  
 梅通  
 けりあそび人のうらや春の月  
 美以  
 石うきる川をさし流す春の月  
 村茶  
 白浪の小舟をくくく春のつき  
 春嶺  
 歩けよ春のちよき春の月  
 蓬宇  
 足唄あそび友のちよき春の月  
 山古

春十八

けりあそび人のうらや春の月  
 春嶺  
 足唄あそび友のちよき春の月  
 蓬宇  
 歩けよ春のちよき春の月  
 春嶺  
 石うきる川をさし流す春の月  
 村茶  
 白浪の小舟をくくく春のつき  
 春嶺  
 相うたふる春の葉はくくや春の風  
 茶圃  
 雪のある山はくくくや春の風  
 晴雅  
 春風の葉はゆるゆる花の影  
 菅川  
 春風や帝徳川の海は春の  
 文海  
 枇杷の華は花を吹や春の風  
 文海





雪

漢雪や銀治り 極雪や妙よきる  
阿雪雪やしく日陣るる雪  
海雪や 菱の雪ふ 降けきき  
ふくくくく雪よれあり 結る雪  
團雪や 雪の雪をくぬ雪の雪  
雪くくくく雪の雪けくく雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪

雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古

雪

雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
山川や雪雪雪雪雪雪雪  
おもおも雪川や深山の雪  
出雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪  
雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪

雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古  
雪 山 古

雪

雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪

雪 山 古

雲のうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 霞をうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 一かたつて雲をくま先度きゝ雲をくま  
 貝のうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 波よけのねを志すうらぬくちよゝ雲をくま  
 是れらのねを志すうらぬくちよゝ雲をくま  
 是れらのねを志すうらぬくちよゝ雲をくま  
 庭もねのうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 海もねのうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 雨もねのうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 雲もねのうらみしつらぬくちよゝ雲をくま

葉史  
 空致  
 松葉  
 車扇  
 智秋  
 女製  
 古鼎  
 葉弓  
 呂山  
 貞忠  
 葉圃

春廿二

長 鐘 閑

雲のうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 霞をうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 一かたつて雲をくま先度きゝ雲をくま  
 貝のうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 波よけのねを志すうらぬくちよゝ雲をくま  
 是れらのねを志すうらぬくちよゝ雲をくま  
 是れらのねを志すうらぬくちよゝ雲をくま  
 庭もねのうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 海もねのうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 雨もねのうらみしつらぬくちよゝ雲をくま  
 雲もねのうらみしつらぬくちよゝ雲をくま

松山  
 素松  
 素外  
 素松  
 素屋  
 柏葉  
 以外  
 松葉



|   |                             |                          |                         |                                |
|---|-----------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| 水<br>温  | 陽<br>美                      | 系<br>遊                   | 暖                       | 泉                              |
| 小田くへん<br>のきんもぬ<br>らむはせは<br>波つちや<br>田あはぬ<br>むなをり<br>あり | 深川の枝川<br>へあそび<br>むさむけ<br>けり | 系遊了ん<br>足あくは<br>遊りぬ<br>水 | 紫一州<br>てもぬ<br>くに<br>門の山 | ざく波は<br>ち系り<br>くるく<br>入江う<br>る |
| 佳言  | 遊者                          | 峽江                       | 乙也                      | 傳壺                             |

|                               |                                    |                               |
|-------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| 休<br>催<br>姫                   | 善<br>遊                             | 永<br>き<br>日                   |
| 休るもめ<br>や裾を<br>足さぬ<br>つけ<br>ぎ | 夕たつた<br>けき<br>の後や<br>善遊<br>らる<br>ば | 永き日や<br>遊ぶ<br>ありし<br>我ち<br>らる |
| 双園                            | 知風                                 | 紫堂                            |

山

おむのふ山にね美ふ日如この那

山古

引お華一舟の袖もね美ふ山

舟文

春をそぬ風北もくく山にらふ

吹囊

央古の日の如ほくきや山美ふ

傾江

雅しう里ももいえく山にらふ

徒飛

ぬつくうと鳴るまらうのー美の山

貞彦

くもそぬ美もくく山にらふ

智秋

美くく美のめきやうやもく山

其斐

美くく美のめきやうやもく山

歌急

美くく美のめきやうやもく山

至信

美くく美のめきやうやもく山

山古

春廿四

春の色

春の色をくけ吹風ももくく美のいろ

其美

海山の春くく吹くありもくく美の色

美松

見も美くく吹くありもくく美の色

梅左

海も山も日あくく美の色

有変

初春風のくくや二兄の美くく美の色

崔叟

くく美くく吹くありもくく美の色

其梅

初春風やもくく吹くありもくく美の色

斧羊

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

車遊

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春風くく吹くありもくく美の色

其美

春の日の雪よありくは海彦山 麓山  
ちよる白やこつら木蔭よまき母の雪 陸奥  
春の白や厚もまむ雪のむらむら 一  
春の雨や雲明くはる雪のけりあり 葉圃  
はるる白や神のまぢふ家合本 歌多  
魚持て隣へ行やまらぬ雨 兵里  
気ゆるりのけり成く一春の白 若成  
蝶持てまきはむのけりやまらぬ雨 水囊  
吉き板よ踏くふらや春の白 車遊  
春の白や氷くけりぬはるの雨 一の宮  
降出りの雪よありぬはるの雨 葉弓

春廿九

二月 寝たころは旅もはるきく二月十九 都夫  
夕よまらるる雪の白のあり二月十九 兵  
春の白や厚もまむ雪のむらむら 水囊  
如きまきや大雪あつら峰 一板 木橋  
二月 春 肩入る神のけり 二日 庚 玉首  
春の白や厚もまむ雪のむらむら 二日 庚 葉圃  
旅人もまらるる雪の白のあり 二日 庚 若成  
身のためをせり人の島 二日 庚 一の宮  
人まらるる馬は二日の雪の白 市笠

貝よ風の風守夜とあそぶと水く  
貝よのたは是のうへ海もはくく風  
雪山 推脱

月馬と来り人の長居や地ある月  
家あまの人もあり浦のたを海月  
為山

扇子雲ふ門をさうり  
まのあもたもあまや  
兼紫子

撞合とこのはあるありあま  
一二里を歩りもやま  
彦根子

田をたふるあま亭一  
夕月の入際よそつおほら  
新風 文意

春廿六

月屋と繼よ受けると高居り水  
井車る水の流すのまの来ると那  
用もあまの川也あけや繼月  
来り汐を来りやむ風や井車る月  
持来り新と舟やねあけつ  
やうのよは繼り出くや繼月  
猫もあま居る四つ过や種つ  
月入るあまも繼り遊あ  
那  
祓言やまのたあまもあま  
たつ雲のまやう見せや月の雲  
祓言とこり形や中々里出  
松雪 雪 東 海 外 外 口 外 百 兼 紫 史 山 古

初陽光 摺ゆるやの 露やもかめそ 移光り  
出代 出のちりや 夕月のけて 在交入  
少代や 暮さるるも しくいし 止る  
風中 中きさきさき つかさき せきりり  
松並や 中しは ちあひそ 物さるる  
揚ともし 少燈を 中し 重なる  
あ村よさるる かのありて 山の北あり  
一里の夕暮 ねと 一山の夕暮  
おの草よさる 風さる 凡中  
おを 中し あり 山の上

相左 泰山  
鳥岳  
嵐山  
熊鷹  
二路  
山古  
谷  
外 垣

春世

三月 二月やあふり 秋のころあり あ  
あ芸

弥生 生さるる 死さるる 墓の 弥生 しのぎ  
山をり 甲より 出さ 啼 やり いろ 北  
晴あり ちかむ ちかむ ちかむ 海生 ちかむ

離れ いやういへ 根を ちかむ 海生 ちかむ  
離 梅 遠 山

離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ  
梅 遠 山

離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ  
梅 遠 山

離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ  
梅 遠 山

離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ  
梅 遠 山

離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ  
梅 遠 山

離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ  
梅 遠 山

心未初也、其の思止もよの心止りき、  
 心得て板をふりしり、難あををし  
 繁島の昔よあせり、むありの水、  
 古心しち家ののきをり、内裏難  
 言くあへの心、あてくむあ難の水、  
 汐干の心、あてのせり、汐干の心、  
 人、舟を人の心、汐干の心、  
 世、あてのらん、汐干の心、  
 心、あてのらん、汐干の心、  
 見、あてのらん、汐干の心、  
 魚、あてのらん、汐干の心、

陸雲 梅葉 水囊 有貴 情難 世負 候友 公成 完伍 梅遊 柏斐

春は

舟をぬの心、あてのせり、汐干の心、  
 夢をぬの心、あてのせり、汐干の心、  
 人、あてのせり、汐干の心、  
 の、あてのせり、汐干の心、  
 波の、あてのせり、汐干の心、  
 煙、あてのせり、汐干の心、  
 美の、あてのせり、汐干の心、  
 美の、あてのせり、汐干の心、  
 別、あてのせり、汐干の心、

有、貴 龍、島 森、船 露、光 百、管 壽、裁 一、分 裁、山 自、長 佳、音



為菜 小雲ちる 義福を おろし 為菜 壹  
 と 新斗 移し 記して こそのお 侍と  
 歌 只 侍む うち あり 為菜 小  
 人の 細り あり 世より 為菜 播  
 冬 ころも 世より あり 為菜 小  
 為中 や 先より あり 為菜 つと  
 雲 あり 雲の あり あり 為菜  
 組板 あり あり 為菜 一き や せり あり  
 出 あり あり 播き あり あり 為菜 小  
 せり あり あり 播き あり あり 為菜 小  
 雲の あり あり 為菜 一き 為菜 播  
 為 山 此 由 山 此 由 山  
 為 山 此 由 山 此 由 山

為菜 小雲ちる 義福を おろし 為菜 壹  
 と 新斗 移し 記して こそのお 侍と  
 歌 只 侍む うち あり 為菜 小  
 人の 細り あり 世より 為菜 播  
 冬 ころも 世より あり 為菜 小  
 為中 や 先より あり 為菜 つと  
 雲 あり 雲の あり あり 為菜  
 組板 あり あり 為菜 一き や せり あり  
 出 あり あり 播き あり あり 為菜 小  
 せり あり あり 播き あり あり 為菜 小  
 雲の あり あり 為菜 一き 為菜 播  
 為 山 此 由 山 此 由 山  
 為 山 此 由 山 此 由 山







眼うつりの梅のうらとよやにのみ家 縁蓬  
赤きやに北梅よき月のうけ 由凡  
梅をくちやあのみち—上の出来あふら 葉史  
海の先北雲をともあせを梅あ— 陸史  
过へ中—軍使れや梅のを糸— 車扇  
梅さくや田もさあ—ある辰在伝 松夢  
う免よささ日氣やあのをたらんを ぬ 續  
反あうとん—と音の月と梅 於 松  
見世せとまあふせりうの月のう免 一 枝  
梅をのへて梅のあをまらつれうあ— 叶 友  
かへん—のむやまを梅のを 素 心

春世三

此の梅や歌うらり—と人もあふ 之 試  
一さちよ白ひの入りや意のう免 口 外  
井をあせと山あふむや梅のを 葉 圃  
山あのをさしり梅や梅のをさる 一 一  
水よさしをう知とよや月の梅 一 一  
う東さくや清くあのみ川運あ 歌 島  
梅さくやあふへお—きとあめり 音 橋  
月のあてをささよまや梅の舟 丘 長  
一—梅も梅の白ひのあ— 有 改  
遊ひの手りたをせき—梅のを 一 峻  
影さくくあふのさうや月北梅 種 海

柳

|                |    |
|----------------|----|
| 門先の雪を隔ててうらやみ   | 英松 |
| 波おこも春の夜のや柳白し   | 、  |
| 暮れしと春の月と柳      | 井本 |
| 玉簪の春の柳のつらきころち  | 四来 |
| 春のころち柳の長居り     | 從永 |
| 柳の春のころち柳の長居り   | 外治 |
| 侍もち此の柳の長居り     | 源水 |
| 柳の春の風や一里ん柳の長居り | 蒼山 |
| 立あつて春の柳の長居り    | 有長 |
| 庭の柳の長居り        | 龍騎 |

|                 |     |   |    |
|-----------------|-----|---|----|
| 枝をくちねてくちねてくちねて  | 柳   | 古 | 西馬 |
| 新くも水もくちねてくちねて   | 春松子 |   |    |
| 芽も柳もくちねてくちねて    | 空英  |   |    |
| 近より春もくちねてくちねて   | 吉林  |   |    |
| 折らるる春もくちねてくちねて  | 若春  |   |    |
| 一雨よ新くもくちねてくちねて  | 徐蓬  |   |    |
| 古き軍の柳もくちねてくちねて  | 某史  |   |    |
| きく波北の柳もくちねてくちねて | 、   |   |    |
| 春の柳の柳もくちねてくちねて  | 春宮  |   |    |
| 春の柳の柳もくちねてくちねて  | 芦川  |   |    |
| 柳もくちねてくちねてくちねて  | 、   |   |    |

足もすち物をもつ川の川辺の形  
 生るのまうこのうせぬ柳うを  
 中より木をふかりぬぬやゆきうれ  
 新う流る柳や魚のこゆる川  
 新月の入をうまるとやあきふ  
 近うまふこぬもこをぬ葬うの事  
 夕のけのあまう嬉しき柳う水  
 清むあ柳めううまあのかりき  
 春うとあけし川辺の葬うの事  
 窓先より川邊こをうき 柳  
 吹とめうゆ先をうく柳の形

波月  
 竹囊  
 車扇  
 水山  
 障蓋  
 函室  
 二中  
 葉弓  
 葉圃  
 琴瑟

春世社

雪をうんよ事もあうそ柳の芽  
 柳うらあうらの葉もを柳うけま  
 風をさうこううううう柳うれ  
 庵持う備う不き柳う水  
 遠葉の結上うけりやあきうれ  
 吹降よ柳うらうある葬うの事  
 ううううぬ雨や柳う増まらうき  
 降るよちううのこゆる柳うの事  
 足風より柳よまうつあき柳うれ  
 をきうのやをううき柳う  
 柳よき土障や生葉の目うは柳ま

其葉  
 多う女  
 春和  
 金風  
 梅左  
 錦糸  
 貞忠  
 風吹  
 岳里  
 水巻

梅柳

何うかきしよのくはを梅柳

芽舎

遊ふよもよき日とありてうめ梅

鴨雄

言はれしよ梅とてうめ梅

若林

宿りしようらりしよ梅柳

芦海

庭合りお北左右やう梅柳

濱河

梅より梅より梅より梅より梅

深来

招の花

この枝は波打際やまのり花

外治

美松

美松やうめお梅り人を築こころ

善陽

横

此花のうらめお梅り梅つらき

世負

美松の木をよとりのつらき

一止

美二月たえき花ある梅り水

葉史

尺のうらめお梅り梅

田丸

中よりうらめお梅り梅

春初

鴨雄の池より新花梅

雄飛

幼花を茶のうらめお梅り梅

鴨雄

梅り梅のうらめお梅り梅

水香

山

山葵 岩垂るお梅り梅

嵐里

鳥

鳥草梅 鳥草のうらめお梅り梅

吾玩

獨

獨活 一花のうらめお梅り梅

外治

細

細花のうらめお梅り梅

芹舎

星のけのうらめお梅り梅

野風

弁のうらめお梅り梅

朱夏

田 打 ときつけし 田面の 自ふ田の 出り丸 風成  
 待 是 中つ内より 玉を 物りく 日教の 水 信民  
 花 初を やある 一つを 玉を 仰り 赤 房山  
 初 花 や 紫標 房 一 咽 ちりし 素屋

まつ 玉や 照り 玉ふ 流の せり 日知 果 左  
 初を や あゆり 進き 不 喉よ 空よ 玉 中 像  
 社 あり や あり 一 社の 玉を 物りし 出を 枝 葉  
 玉 あり 玉や 中より 玉を 物りし 玉 秋 里  
 玉 あり 玉を 物りし 玉を 通る 玉 市 道  
 初を や あり 玉の あり 玉を 物りし 玉 茂 書  
 初を や あり 玉の あり 玉を 物りし 玉 梅 左

幼 梅 初を や 一日の 雨北ゆり 玉 一 雨  
 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉 梅 占 拙 謀  
 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉 梅 占 拙 謀  
 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉 梅 占 拙 謀  
 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉 梅 占 拙 謀

紅 梅 切戸 あり 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉 梅 占 拙 謀  
 紅 梅 や あり 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉 梅 占 拙 謀  
 紅 梅 や あり 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉 梅 占 拙 謀  
 紅 梅 や あり 玉を あり 玉を あり 玉を あり 玉 梅 占 拙 謀



接

種

是れはあふふよき種を種く接種は  
 のちの戸よのつらしきある接種は  
 接種し目より出しききつるに  
 見え居るは差違ひなきつるに  
 忘れ井下にふきつるのふ種りきき  
 苗代のふよきとくや秋の種  
 苗代や水の加減しきとく種  
 苗代や水の田んぼきき種  
 二六代種一は種や苗代田  
 苗代や水を伸出する二六寸  
 苗代や種ある中よ共種田

雪上  
 心足  
 比叢  
 森原  
 之試  
 清水  
 文雄  
 森山  
 種泉  
 石表  
 雲芝

苗

代

種

の

種

却

是れはあふふよき種を種く接種は  
 のちの戸よのつらしきある接種は  
 接種し目より出しききつるに  
 見え居るは差違ひなきつるに  
 忘れ井下にふきつるのふ種りきき  
 苗代のふよきとくや秋の種  
 苗代や水の加減しきとく種  
 苗代や水の田んぼきき種  
 二六代種一は種や苗代田  
 苗代や水を伸出する二六寸  
 苗代や種ある中よ共種田

雪上  
 心足  
 比叢  
 森原  
 之試  
 清水  
 文雄  
 森山  
 種泉  
 石表  
 雲芝

種

の

種

の



是れはあふふよき種を種く接種は  
 のちの戸よのつらしきある接種は  
 接種し目より出しききつるに  
 見え居るは差違ひなきつるに  
 忘れ井下にふきつるのふ種りきき  
 苗代のふよきとくや秋の種  
 苗代や水の加減しきとく種  
 苗代や水の田んぼきき種  
 二六代種一は種や苗代田  
 苗代や水を伸出する二六寸  
 苗代や種ある中よ共種田

雪上  
 心足  
 比叢  
 森原  
 之試  
 清水  
 文雄  
 森山  
 種泉  
 石表  
 雲芝





櫻

近江をけりて 物かきりて 櫻の影 雪の  
 多きふしめりて 入るるを 櫻の影 雪の  
 花の影やふりて 何所の 雲は霞の  
 水囊

長春一しりて 月ある 雲の影 雪の  
 花の影やふりて 何所の 雲は霞の  
 水囊

長春一しりて 風やいりて 雲の影 雪の  
 花の影やふりて 何所の 雲は霞の  
 水囊

赤南  
 魚珠  
 酒埴  
 水囊  
 城山  
 崎嶇  
 晴月  
 聳人  
 如水  
 氷雪

遊

梅

枝はこけりてよのくせそへ重きくら  
木はのせそへくせそへあり遊梅  
らんふくくせその中より遊きく  
岩をくくせそのおれをゆく  
春書よのくせそや遊梅

長 教  
遊 園  
玉 法  
蘆 海  
水 壺

花

くせぬ時にもおれり一語一をきり  
夕敷よのくせも日おそくをきり  
鐘くくくせも静かあるおれり  
旅よのくせもたむき忘れしおれり  
宿よありあるから毎日をきり

芹 舎  
呂 山  
氏 東  
種 好  
西 樂

春中

空をんくくせもふくせもくくく  
おれぬぬゆりものおれをきり  
つむせもぬぬゆりものおれをきり  
はるくせもぬぬゆりものおれをきり  
きり波の自ぬゆりものおれをきり  
ちりくくせもぬぬゆりものおれをきり  
日ちせもぬぬゆりものおれをきり  
年の入るぬぬゆりものおれをきり  
まつちりぬぬゆりものおれをきり  
そくくせもぬぬゆりものおれをきり  
地よはるくせもぬぬゆりものおれをきり

鶯 塚  
空 宮  
歌 島  
氏 東  
徐 蓬  
氏 東  
塞 馬  
水 壺  
蘆 園  
漢 壺  
真 壺

ねる酒のつゝよきまのなまむら  
 のまはれあふせうとせうの指の事  
 川魚の能きよあうぬるをの宿  
 美まらつやとせうとせいのめいそき  
 答う、時よよとせうとせうしるふ  
 のの中咽をるを肩よあひりり  
 大を黄をよおうとせうや咽のそ  
 襟抱えよの雨きくゆを屋う丸  
 人きよこのをらやとせう一まはれ  
 二三月の日和よとせいの燈の那  
 眠休めのねらあうりきとせいのそ

五 坂  
 士 敦  
 由 凡  
 生 東  
 妻 松  
 米 子  
 再 十 呂  
 一 住  
 素 人  
 物 遊  
 信 水

宵せよも落しきやうとせいの雪  
 美まらつやとせいの花の山  
 美まらつやとせいのあいのうせう  
 とらうとせいの嬉しきとせいの月夜  
 そと風の後おり後とせいの波  
 杯をとりぬるあつとせいの七  
 是ちよやとせうとせいの上  
 美まらつやとせいのあつとせいの  
 眠よとせいの風あつとせいの友ゆふ  
 美まらつやとせいのとせいの

初 曉  
 歌 高  
 鈴 舟  
 雲 船 ぬ  
 義 山  
 曉 月  
 妻 高  
 雪 橋  
 秋 里  
 美 里

紫子の花

日月の空のさびせはふ

一止

海棠

海棠やまの空をく

北囊

未成の花

未成の花をさかす

英湖

蓮

蓮の花をさかす

智秋

躑躅

躑躅の花をさかす

如白

魚一ねを著る

魚雪

茶

院くも雲を隔るは

下嘉山

石切よ苔火の

係友

清もそぬを山

梅左

ちあつちとある

茶海

雲あしをい

務旗

思ふまじり科

仙芝

流気ある海

水壺

節の節よあ

波同

陽をく宮く

文種

ちのハ

東



新月のあつちりときけきききき  
青麦 青麦やあつちりときけききき  
三月葉 三月葉やあつちりときけきき

猫の意 重なるまのふたをを春の初志  
うつせ猫雪路う一本一魚もせよと

新清くしきやうくせうこのせし猫  
嵐しるか別もあまうこれ福と  
気のもまぬ教へてせうぬうのせ物  
篠をうく雨もいとせしけきのもる猫

山古  
有虫

菜更  
素弓

此囊  
出坡  
能高

白魚 白魚やあつちりときけきき  
濁りうらうらうとせしとせしぬ白魚うれ

白魚よあつちりぬ川のよあつちり  
雪をうらうらうとせしとせしぬ白魚うれ  
雪うらうらうとせしとせしぬ白魚うれ

百千鳥 百千鳥やあつちりときけきき  
人ものあつちりときけきき

世の世もあつちりときけきき  
あつちりときけきき  
あつちりときけきき  
あつちりときけきき

完語  
如白

柏翠  
妻玉  
月人

波語  
四端

一字  
清水  
瑞池  
波月

世帯

|   |  |  |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|--|--|
| 春の香もあけや深山の影もく<br>うつくしきよきもわが心も<br>うつくしきよきもわが心も<br>うつくしきよきもわが心も<br>うつくしきよきもわが心も | 有政<br>素<br>山<br>左<br>東<br>碩<br>馬<br>内<br>日<br>雨<br>那 | 春<br>香<br>も<br>あ<br>け<br>や<br>深<br>山<br>の<br>影<br>も<br>く | う<br>つ<br>く<br>し<br>き<br>よ<br>き<br>も<br>わ<br>が<br>心<br>も | う<br>つ<br>く<br>し<br>き<br>よ<br>き<br>も<br>わ<br>が<br>心<br>も | う<br>つ<br>く<br>し<br>き<br>よ<br>き<br>も<br>わ<br>が<br>心<br>も | う<br>つ<br>く<br>し<br>き<br>よ<br>き<br>も<br>わ<br>が<br>心<br>も |
|---|--|--|--|--|--|--|

春四十一

|   |                  |  |  |  |  |  |
|---|------------------|--|--|--|--|--|
| 春の香もあけや深山の影もく<br>うつくしきよきもわが心も<br>うつくしきよきもわが心も<br>うつくしきよきもわが心も<br>うつくしきよきもわが心も | 大<br>松<br>山<br>古 | 春<br>香<br>も<br>あ<br>け<br>や<br>深<br>山<br>の<br>影<br>も<br>く | う<br>つ<br>く<br>し<br>き<br>よ<br>き<br>も<br>わ<br>が<br>心<br>も | う<br>つ<br>く<br>し<br>き<br>よ<br>き<br>も<br>わ<br>が<br>心<br>も | う<br>つ<br>く<br>し<br>き<br>よ<br>き<br>も<br>わ<br>が<br>心<br>も | う<br>つ<br>く<br>し<br>き<br>よ<br>き<br>も<br>わ<br>が<br>心<br>も |
|---|------------------|--|--|--|--|--|





雑

子

起りの春物のけは寝る夢やほし

由松

春の白より春は居ぬる燕この水  
舟を起し舟のちをらきつちあうれ  
舟を起し燕のむせむ廣にうま  
陣家のせむうは是も燕ふ燕う水  
四上朝の小むらうの飛信をぬく  
神柳へまきまきまきりうまの燕  
陣よむせむ人の中とふて春は  
朝の燕のさきまきまきる燕うれ  
と春や雪のうちは燕のさきま

葉史  
春書  
一得  
燕山  
文志  
笑山  
風交  
春橋

とあて出てよまきしきよ雑子の妻  
雑子船や柳へ小舟を山根より  
きし陣や指うくせし日の昇る  
芝原や人足まきまきる松のき  
比りありの中よ起まきの水この丸  
雑子あくや柳よまきまきる不松山  
山をうらむゆるる雨を起しり春  
起し陣や舟をうまの近一里  
雑子あくや舟をうまの近一里  
きし陣や陣風の空まき日の出ま  
雑子あくや舟をうまの近一里

無平  
春泉  
山古  
春松  
陣愛  
井水  
龍里  
二中  
松重  
波月  
車遊

寂さきしやうよ難まのよきうりり星  
 きー啼や茶を飲まうう椽へむる  
 竹まきるーちや茶葉を下り 松 一亭外  
 竹のあらやふらう椽もあらうし  
 竹陣や何れもいあまのへる 居 一茶山  
 竹のあまもあまのへる 居 一得  
 竹のあまもあまのへる 居 一茶山  
 竹のあまもあまのへる 居 一得  
 竹のあまもあまのへる 居 一茶山  
 竹のあまもあまのへる 居 一得

春四十九

風情あまきいあまのへる居 比囊  
 交る居 居のやう枝のうへよちまきうる 杉左  
 啼うの中の調子やまのりる居 仙芝  
 居の巢 ちのうの巢あまのへる居 菜史  
 啼の巢やちのうの巢あまのへる居 林香  
 松尾居 ちのうの巢あまのへる居 其敬  
 朝 居の巢あまのへる居 権左  
 居の巢あまのへる居 相左  
 居の巢あまのへる居 雪次  
 居の巢あまのへる居 林香  
 居の巢あまのへる居 波崎

蛙

子工つせり飛時をふふせり見は  
 予と考を宵啼やも伴このま  
 出てこのふをぬねも啼蛙の聲  
 時をや一歩くよよふこのま  
 老よ寝ぬねよつをぬ蛙の  
 雨あるとや丘ももどら啼蛙  
 老よおのつをぬえをぬ蛙の  
 やらと飛このまもぬと雨の庭  
 うまのつをぬねをぬ蛙の  
 中あまの耳の果報やもつ蛙  
 集り啼と老のつをぬ蛙のま

芦中 完任 山古 糸信 中儀 岸一 東雲 風定 新朝 其致

春五十一

庭のねを啼つ海あり啼つ  
 老よとつをぬねをぬ蛙の  
 二つこの啼つちハきつ蛙の  
 鳴あるとの智直るつをぬ蛙の  
 小雨は只のつをぬ蛙の  
 老よとつをぬねをぬ蛙の  
 蛙のつをぬねをぬ蛙の  
 二夜中ハをぬねをぬ蛙の  
 田のあもぬねをぬ蛙の  
 降る老よをぬねをぬ蛙の  
 うまのつをぬねをぬ蛙の

茶山 老松 北山 七囊 東遊 遊世 蛸蛙 貞忠 鬼月 如緒

悼

悼

葉をささる蟬やとせきさへ親 心こころ 揺 泉  
 蟬の葉や強きぬ戸の母を安き 古 祖 知  
 何れもささる葉のくせを蟬知に 得 其  
 初蟬やちのめきいづる 露 塔 州 氏 未  
 ちつ蟬や葉へさし出と赤の葉 昔 壽  
 初蟬のけなきよ 露 水の上 若 貴  
 何れなき心いづるま 小 蟬 の 葉 ぬ 白  
 眼よつくやいづるま 蟬の葉 一 つ 葉 片  
 この初を一日のうめ 小 蟬 の 葉 葉 成  
 葬したる安をささるのま 蟬の葉 一 つ 葉 成  
 世をささるま 人 さいのせり 小 蟬 の 葉 士 教

春五十一

蟬燭火よ松の蟬葉ふや庭う葉 追 削  
 葉のけなき風あり 蟬の葉 一 つ 葉 成  
 又ととなく眼よつくまのりかてふ 小 蟬 の 葉 葉 成  
 何れもささる葉のくせを蟬知に 得 其  
 初蟬やちのめきいづる 露 塔 州 氏 未  
 ちつ蟬や葉へさし出と赤の葉 昔 壽  
 初蟬のけなきよ 露 水の上 若 貴  
 何れなき心いづるま 小 蟬 の 葉 ぬ 白  
 眼よつくやいづるま 蟬の葉 一 つ 葉 成  
 この初を一日のうめ 小 蟬 の 葉 葉 成  
 葬したる安をささるのま 蟬の葉 一 つ 葉 成  
 世をささるま 人 さいのせり 小 蟬 の 葉 士 教

地窟を玉 官をむと地を脊をちを提り丸 雪山

地窟をむと地を脊をちを提り丸 仙芝

地窟をむと地を脊をちを提り丸 善相

地窟をむと地を脊をちを提り丸 碩水

地窟をむと地を脊をちを提り丸 新南

地窟をむと地を脊をちを提り丸 山古

地窟をむと地を脊をちを提り丸 由几

地窟をむと地を脊をちを提り丸 呂山

地窟をむと地を脊をちを提り丸

春中二

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 古拙

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 再

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 鳥

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 居

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 居

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 居

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 居

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 居

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 居

鶴合 出をむと地を脊をちを提り丸 居

梅魚  
鮎

さし腹よるりしあしきうきく魚  
日のよもむ海生よもゆるか鮎の乳  
つゆの雨のりのある小魚魚うけ  
あよもむ海よあつりし小鮎の乳  
海生あしこのあつよもき小鮎の乳  
針さすもよもこのくま鮎も  
あつらるるへれくこのあつこの乳  
あつらるるををへれくこのあつこの乳  
り鮎のあしきあもあへん鮎とまき  
春時や侍る後きへん鮎のみ  
あつらるよこのあつこのあつこの乳

鮎  
菜史  
岩里  
比囊  
石  
不二丸  
庭の  
葛  
山古  
英松

柳  
鮎

起このとを入てあつこのあつこの乳  
春時あつこのあつこのあつこの乳  
物あつこのあつこのあつこの乳  
×切てあつこのあつこのあつこの乳  
引鮎よもあつこのあつこの乳

鮎  
川  
岩  
松  
春  
水

福  
若

家あつこのあつこのあつこの乳  
海若のあつこのあつこのあつこの乳  
あつこのあつこのあつこのあつこの乳  
宿人よ侍るあつこのあつこの乳

鮎  
若  
宿  
水

海苔の葉は山家あつても詠こころ  
 山もや海苔の葉の詠走ふり  
 中つては料理やうとあつた海苔  
 去もあまき波もあつたり海苔のり  
 帆の影のさきや海苔まきくさるる  
 海苔汲れうらうらうらうら  
 小豆粥のさきふやん世もわけぬうち  
 海 雲 つれいともよき味ある海雲の丸  
 麻尾葉 扱へて塔のさきふり 蕨尾葉 小  
 粥 鮎 智蒲葉 扱へて二階や射あまき  
 春 晴 春ぬらや 衝 之とせを 細 島  
 由岐 葉 史 其 斐 永 夢 有 政 相 左 中 琴 翠 山 九 龍 海 了

治 肆 海 治 肆 海 也 机 の 先 能 人 よ き き  
 治 肆 海 や そ の 板 う 中 雨 の 音  
 叶 餅 葉 を も ち 葉 さ へ う つ 塗 打 扱  
 葉 を よ 望 せ 中 人 を 叶 の さ 出  
 柳 の 海 風 ぞ の り 葉 よ 出 る う ち 此 さ け  
 白 海 風 さ け や り ぶ 一 日 冬 む 雪 ぬ の 世  
 き 葉 だ く し 葉 き 花 ら 葉 よ 詠 の 乙 女 小  
 古 世 の 里 ぶ う せ け き 葉 小  
 山 古 漢 多 山 古 一 得 山 古 菜 史 ぬ 白 水 巻

治 肆 葉 纏 せ づ ち ち ら ち ち け ち 治 肆 葉 述 志



いふやうにもいふやうにやがた陸帯 一 亭

番 卸 五の戸をわくや以忌のをを古らも 古 祖 12

考 換 響のへや社のぬももあうぬ 雨 香 岳

解 符 解あきやいつせのいさむ人のあ 袖 麦 前

須 古 級 ねをふく風も新りー須古級 雪 茨

仰 忌 五の戸をわくや以忌のをを古らも 松 魚

いさう来てあさけ能き以忌の鐘 栗 魚

鳴ちつういさき耳も以忌のい 徐 遠

きんたもいさきいさきぬ以忌の鐘 菓 史

いさき居ていさきぬやういさき以忌の鐘 外 治

川 風 の ききふいさきぬや以忌のい 山 古

初 年 初年やいつもふちや、表もいさき 山 古

まつ年や足輕所ハ子の多き 由 儿

初 年 や 浅 来 も 初 も 小 大 手 忌 素 松

初 年 や 出 来 小 土 橋 の 後 う ち 吸 山

社 日 系 忌 の 歌 実 の 入 る 社 日 の 水 山 古

水 取 水 と う や 噴 水 忌 倍 の 歌 案 草

薪 能 い ち の 能 行 も 有 中 薪 能 在 尔

里 の 子 又 妻 組 同 中 中 薪 能 古 右 成

其 能 や 中 忌 の 神 又 焚 ち 古 九 紀

涅槃 せつりのき政の雪や福をん像 途 遠  
 世にあつて 時の佛を涅槃像 尋 糸  
 清く木の縄ゆめや福をんの日 旭 糸  
 空の世に霞のまをくわ涅槃像 以 囊  
 西行忌 重なりきまのまの 西行 忌  
 月をえきかひ出し 西行 忌  
 旅先やあつて 西行 忌  
 彼 岩 咲 命をもちも黒報未 旅 忌  
 梅影忌 途中のら舟はく 梅影 忌  
 梅影へりき 舟を 佐立舟 梅 巢  
 壬生海 舟をもち 旅人や壬生を 山 古

喉の峰 山入や 舟をもち 舟 舟  
 以身拭 舟をもち 舟をもち 舟 舟  
 踏 歌 舟をもち 舟をもち 舟 舟  
 歌 艇 舟をもち 舟をもち 舟 舟  
 寒 食 舟をもち 舟をもち 舟 舟  
 水 舟をもち 舟をもち 舟 舟  
 美 雜 舟をもち 舟をもち 舟 舟

安政六百題後編

夏之部

四

月

未の御幸、鎌倉を去るに四月九日

辰

祖領

如法寺に於て内あつしき、四月九日

、

未の御幸、鎌倉を去るに四月九日

在

在

朝野も御病も去るに四月九日

辰

月人

山崎の陣も去るに四月九日

素

松

卯

月

初冬の雨を去るに四月九日

仙

月

雪を去るに四月九日

中

在

未和州の去るに四月九日

堂

山

五十七

木の下へ木をこぼるるお月も  
 不板の手探せしやつくお月も  
 燈よ出せお月もよお月も  
 穴へもせお月もよお月も  
 志よりも指ゆきお月も  
 茶高の冬木よお月も  
 志くもよお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も

玉法  
 川遊  
 生花  
 生花  
 此囊  
 市宜  
 而后  
 糸魚  
 世負  
 茶瓢

くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も  
 くの板や何れお月もよお月も

永年  
 仙月  
 松圃  
 有表  
 古堂  
 宗水  
 兵要  
 水香  
 梅程  
 酒藤  
 卜外

明安き夜ありてまを頂てゆふ  
 舟は海を渡るを思ひしなり  
 大矢粒 いさなり魚をさすて大矢粒  
 大矢粒 一類  
 附つてやれん上戸もさう志く  
 附の白むのれ 葵史  
 附の戦き 比囊

附

附多むむきよき 霜の志く  
 附の月 換雪  
 附の月 羽雪  
 附の月 雪英  
 附の月 山  
 附の月 比囊

扇

扇多むむきよき 霜の志く  
 扇の月 換雪  
 扇の月 羽雪  
 扇の月 雪英  
 扇の月 山  
 扇の月 比囊

茶 扇 有 茶

積 山 帆 古

兼 日 古 茶 古

水 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

山 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

五月 舟 古 古 古 古

職

厚敷所物ありて一のありうれ  
 出久入久そ家家の帳ありの是うを  
 けしんやんやんをそそめそ袖はけり  
 くとまうと眼をふりよの帳のそ  
 帳よちのふおありか帳の非  
 足丹の登るらそらや印地也  
 川凡よふとそむ種や印地也  
 帳思の二とそそそそ印地也  
 先証よそ質のそそ所地の乳  
 志のそそ細統 志のそそ印地也  
 志のそそ入付のそそむや印地也  
 又進

印地

席の雨

藤をそそおのいせりり席の雨  
 座りとり思の目そそり席の雨  
 席の雨細のそそそそそそ  
 座のそそそそそそそそそそ  
 席の目やそそそそ雨の降通そ  
 そそそそそそそそそそそそ  
 系社もぬらそそそそそそ  
 庭先もそそそそそそ入梅の雪  
 八梅中庭のそそそそそそ  
 五月雨 久一りり梅の大雨月雨  
 五月雨そそそそそそ一梅の折れ

ハ梅

五月雨

喜正 朱瑞 素山 龍崎 怪慶 若現 表家 一新 水囊 昌吉 又進  
 心星 務延 偏友 五郎 之儀 負患 竹囊 危雪 車遊 多代女 波路

五月雨のつらき清き五月雨  
 茶のふれりつらき五月雨  
 しく清き庭木書入つきあは  
 らず干あるほよみあは五月雨  
 五月雨をつらき清き五月雨  
 燗の火のたきつらき五月雨  
 ねのきとめく哉日とせりあめ  
 きみたせやねのつらき五月雨  
 五月雨や茶大北つらき五月雨  
 やつらき五月雨茶大北つらき五月雨  
 五月雨や茶大北つらき五月雨

龍 嶺  
 世 貞  
 祐 之  
 茶 山  
 如 白  
 未 精  
 卜 早  
 東 園  
 深 蓮  
 茶 雪  
 若 玩

夏也

五月雨のつらき清き五月雨  
 茶のふれりつらき五月雨  
 しく清き庭木書入つきあは  
 らず干あるほよみあは五月雨  
 五月雨をつらき清き五月雨  
 燗の火のたきつらき五月雨  
 ねのきとめく哉日とせりあめ  
 きみたせやねのつらき五月雨  
 五月雨や茶大北つらき五月雨  
 やつらき五月雨茶大北つらき五月雨  
 五月雨や茶大北つらき五月雨

世 貞  
 祐 之  
 茶 山  
 如 白  
 未 精  
 卜 早  
 東 園  
 深 蓮  
 茶 雪  
 若 玩









手入しこ木つらつらなるや庭より風  
 ぞあまよひは吹くし庭このまをりうせ  
 松風やおのしほ縁くろくをう薫る  
 若の男よ灯とをを庭や風うをる  
 舟やちのつゝ家庭——うせ薫る  
 言のせと物ふ街やこの是うをる  
 廻廊や灯とを——灯をうをる風  
 湯の水ふむををやこの是うをる  
 月ゆまる斗もま——雪の波  
 中——さや澄う月もつくと夕物  
 源——さやよるさよめぬ廣小池

由 係  
 祐 々  
 春 夜  
 標 系  
 旗 圃  
 一 嘆  
 條 束  
 水 煮  
 丹 炭  
 造 山  
 兵 鬘

源

さ——さや戸口を舟の竹をり  
 源——さの風情や庭の玉より  
 さ——さや松とま——く村の波  
 す——さや松とま——く村の波  
 源——さよおく障もあ——さ中庭  
 障の園北仕上りつらうと夕出はし  
 さ——さや吹る松とま——くい木  
 波もるる松りさ——き黄大が  
 表——さやま——き家のとり——か  
 す——さやま——くむのあま島の交  
 さ——さやと渡く戸口や松の系

波 月  
 嘉 船  
 兔 舟  
 一 笑  
 雪 山  
 由 几  
 卜 外  
 桑 弓  
 完 里  
 熟 池



多うさめききまうてんそは井婦人 一花  
 飯麻しつ試しきうり竹輝人 仙芝  
 響かすつ中一ふまてきあらし 香嶺  
 以てききまうや入にうきあらし 玉信  
 青あらしきまう所のこききけり 如白  
 吹あらしきまう静ありきあらし 玉山  
 御先きまうてんそきまうきあらし 車扇  
 岩きまうつ波のあきやきあらし 里廣  
 虹を備雨をあのうきまあらし 井東  
 船頭あらしきまうきまうきまう 島五  
 砂きまうきまうきまうきまう 漢香

雪の峰

活一也 輕もきまうてんそきまうてんそ 京文  
 又通る人よりきまうてんそきまうてんそ 花海  
 出よの雪もきまうてんそきまうてんそ 完里  
 馬の脊もきまうてんそきまうてんそ 風交  
 旅人のきまうてんそきまうてんそ 岩和  
 魚もきまうてんそきまうてんそきまうてんそ 景月  
 岩もきまうてんそきまうてんそきまうてんそ 玉碩  
 中りよるきまうてんそきまうてんそきまうてんそ 雪城  
 中もきまうてんそきまうてんそきまうてんそ 松溪  
 川もきまうてんそきまうてんそきまうてんそ 後洞

夏の月 有花

にありよくのやまをあらた月 佳花

魚をまのし春の動可あらの月 秋之

夏の月 花の輝居をゆつり月 出雲

秋風まわりのらこ月 夏の月

宿のしと秋 程あつた夏の月 生東

夢のせと 潮のあつりや夏の月 文雄

夜はくつるそらをあら夏の月 文志

あまうけの舟よふけく夏の月 出城

きつくとさぎのたまこひつ夏の月 紫圃

す縁の木の相のたや夏の月 海達

とあつらわいやくまの夏の月 新江

うつる屋の船のりあ夏の月 若井

ゆあまはあつらわい夏の月 水産

夕まやあつらわい夏の月 花産

夕まやあつらわい夏の月 梅産

夕まやあつらわい夏の月 菊の女

夕まやあつらわい夏の月 弓産

夕まやあつらわい夏の月 素心

夕まやあつらわい夏の月 秋之

夕まやあつらわい夏の月 雨之

夕まやあつらわい夏の月 梅之

夕まやあつらわい夏の月 左

夕ま

夏の雨





秋 近 秋色のくもや夕アの霞をうらむ 嵐里  
夏 生 夜 遙くもはゆき人帰らざる夏生夜 清民  
家ありよきはるる夜あり一 雨生夜 天  
舟人のあはれを道るや夏生夜 花  
夏の夜 夏の夜や雨ははらぬる月よふ 露  
夏 夜 夏の夜にそはれをりよはあをる 菅  
夏三月 雨は夏思ふこの雨をさる月 蓬  
夏の旅 夏の旅にくるよ山をさる夜の旅 城  
夏の夜 夏の夜にそはれをりよはあをる 茂  
夏の山 夏の山にそはれをりよはあをる 山  
雨をよふよふの情あり夏生夜 妻

物凄き末の風舟をよ夏生夜 呂  
夏山やあはれをりよはあをるの所 久

牡丹

牡丹 夏の夜やあはれをりよはあをる 素  
近よあはれをりよはあをるの所 雨  
夏の夜を築くよはあをる牡丹の夜 露  
一編の夏の夜を築くよはあをる牡丹の夜 花  
夏の夜のあはれをりよはあをる牡丹の夜 露  
夏の夜 夏の夜にそはれをりよはあをる 菅  
夏の山 夏の山にそはれをりよはあをる 山

牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...

糸  
丹  
仙  
若  
告  
其  
其  
不  
市

芍

牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...

外  
宗  
古  
根  
秋  
一  
葉  
而  
京  
好

花

牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...  
牡丹の... 牡丹の... 牡丹の...

人熱の赤く海日の出や 莖子は花 有る花  
 咲きうらむ眼のよもなき世は 杜 草 浪分世  
 一とちの八景泉も 初く川やのきとをさ 乙 郎  
 高くいふなき名を 船甲のこの世へをさ 聖徳太子  
 咲かすとも 同く一葉ありや 莖子は花 彦 晴  
 西風の葉よ 勃りぬまやのまゝらうい 一  
 白くも若らぬなきあり 莖子は花 彦 晴  
 垣よなき山 海はのちをさ 一 さきつたをさ 百 賀  
 眼のさめるやうなきあり 杜 草 波 琴  
 水もさきとせぬ 咲かぬや やかぬまをさ 陸 奥  
 ぬかぬまをさ せぬぬぬあり 一 杜 草 北 囊

戦きつらうちの初くや 杜 草 菘 得  
 赤くも若らぬなきあり 一 さきつたをさ 祐 之  
 峰の葉よまぬの世をさ うきうのまぬ 佳 長  
 中流のこゝ 橋の二夫や かくつたをさ 山 古  
 江のこゝまゝのよき 里ありや 杜 草 成 山  
 あふくともありや 水やのまゝらうい 井 鳩  
 そよ風よゆかそ、まゝらうい や 莖子は花 外 浪  
 深きうらむ命や のまゝらうい 無 雪  
 多き色なき世に かくありぬ 若莖の花 赤 泉  
 井のこゝちのまゝらうい せせせ若莖の花 由 係  
 鉄線花 手入のこゝちのまゝらうい せせせ若莖の花 由 係  
 鉄線花 手入のこゝちのまゝらうい せせせ若莖の花 由 係

麦秋や所をさきまのよほり味  
 麦秋もさや名けきやまら馬  
 月まのりま麗ままらり麦の秋  
 細まのりまらるる家も麦の秋  
 まらりまも様もまらりや麦の秋  
 麦秋やまら揺りある日如業  
 柴橋まらも麦秋の心屋のり  
 麦秋や度の度もまらまら  
 身まらるる換いまら麦の秋  
 麦刈や見知はるのりまら  
 麦穢やほのりまらまら

後山  
 連山  
 心屋  
 深水  
 梅片  
 比囊  
 樹石  
 好山  
 再世  
 知風

枝垂木の影下まらまら麦在業  
 半若よりまらり割り一歳の皮  
 麦畑やまらも家賣のまら  
 うらりお人まらりまら一歳の花  
 まらりまらまらまらまら  
 席地まらりまらり一歳の花  
 雨風のまらりまらり拍のり  
 まらりまらりまらり拍のり  
 まらりまらりまらり拍のり  
 まらりまらりまらり拍のり  
 まらりまらりまらり拍のり

仙月  
 不由  
 概悦  
 素園  
 茶子  
 新燈  
 山古  
 如拙  
 塞馬  
 漢花  
 漁蓆

藤上の條のそとに赤くある茶葉の丸 乙也  
 押あつたての茶をいじりしき茶葉の丸 奇形  
 夕まをたてたの茶の白ふ山吹丸 徐蓬  
 茶葉の丸の両方何れも茶葉の丸 俾茶  
 茶をいじりしき茶葉の丸 一芳  
 茶をいじりしき茶葉の丸 比叢  
 人里をいじりしき茶葉の丸 芦海  
 丸も又茶をいじりしき茶葉の丸 花眼  
 一板をいじりしき茶葉の丸 煙好  
 丸をいじりしき茶葉の丸 梅侯

新樹

雨あつたての茶をいじりしき茶葉の丸 茶電  
 丸をいじりしき茶葉の丸 一笑  
 丸をいじりしき茶葉の丸 赤廊  
 丸をいじりしき茶葉の丸 之試  
 丸をいじりしき茶葉の丸 曉月  
 丸をいじりしき茶葉の丸 古棠  
 丸をいじりしき茶葉の丸 雪秋  
 丸をいじりしき茶葉の丸 石后  
 丸をいじりしき茶葉の丸 岩玩  
 丸をいじりしき茶葉の丸 仙月





櫻根の花 葉を風の何ふる音あり 櫻根の花 其致  
つたり 吹く風も入目さるる音もさるる音も  
今もその音も響る小坂の志けり云 美湖  
さき野の音も何ふる音もさるる音も 抱花  
うら志ありて音もさるる音も 南水  
水音の左ありて音もさるる音も 影園  
大隈の音もさるる音もさるる音も 音子  
秋木の音もさるる音もさるる音も 種好  
音もさるる音もさるる音もさるる音も 外友  
音もさるる音もさるる音もさるる音も 崙里  
音もさるる音もさるる音もさるる音も 歌家

夏廿一

中の子 竹の音もさるる音もさるる音も 月杵  
筆を雨の音もさるる音もさるる音も 筆田  
中の音もさるる音もさるる音も 素松  
けの音もさるる音もさるる音も 然池  
音もさるる音もさるる音も 魚藻  
ふけの音もさるる音もさるる音も 破雨  
まねの音もさるる音もさるる音も 之試  
老芭蕉 さき野の音もさるる音もさるる音も 湖舟  
煉輝の音もさるる音もさるる音も 一字  
友木立 竹の音もさるる音もさるる音も 西馬  
月の音もさるる音もさるる音も 由儿





くらきより温泉のまじりたるをなまむ  
 夜もまじりたるをなまむ  
 けいふくよ木の根ゆつとやなまむ  
 水のこゝろ場をなまむ  
 よき風のちよつとよまむ  
 髪削る女目若やなまむ  
 拙い家のらふやなまむ  
 草葉つゆの性よやなまむ  
 おまもあやうくはなまむ  
 蓮の浮袋ゆりのまき性もふ蓮の浮袋は  
 何れ居るまき性のまき蓮はまき

後蓮  
 水囊  
 水山  
 波月  
 女  
 江  
 吾れ  
 後  
 然  
 山

夏廿二

茶州ぬき茶を推してむ茶茶州  
 草蒲新もや新のふい沼のらやめえき  
 草蒲をく濁りやあらく浮をり  
 新の草やつとちもき新さうぬ  
 草もまき草蒲もまき一旗の家  
 月の入るはらもゆりや新のらやめ  
 風のまきをさうや新のあやめ州  
 新もまきまき草蒲の戦きさう  
 庭先六田ありまきさうまきさうぬ  
 花且見是まきまき新のらやめ  
 紅の花新のらやめ紅のまき

雪山  
 中  
 杉  
 雪  
 旗  
 山  
 山  
 六  
 之  
 水  
 不  
 新



持子花、菊、小豆、川、松、つぎ、り、り

川遊

菱の花は花を伴代にあり、菱の花

波月

の骨川をよや遊、あまの葉、舟のあ

野水

のあまの葉、あまの葉、あまの葉

里水

浮浮のき、りや村のき、り川

雪山

蘭、川、午、刻、り、り、り、り、り、り、り、り

桐左

持子、持子、持子、持子、持子、持子、持子、持子

大夢

持子、持子、持子、持子、持子、持子、持子、持子

持子

百合花、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

見外

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

文彦

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

花彦子

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

徐来

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

水哉

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

永号

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

安月

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

公成

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

花血

あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉、あまの葉

春重



茄子 荷うまもあつたや市のか茄子 後民

神といふ石は味ふりの事茄子より葉 主出

ゆりあつたもや茄子の道うまの 古鼻

場 梅 やまもや葉のくせに、香るもの此 降岳

若井 若井のお世へて——うまうまの葉 聖井

とま井 月・の葉や葉くまうのうまうまの葉 素成

和りの葉風のあつたやあつた——叶 若川

叶 梅 うまうまの葉のせりうまの葉 若風

梅 うまうまの葉のせりうまの葉 月村

夏廿六

蓮

うまうまの葉のせりうまの葉の葉 長官

梅のくせや日る葉をさくふ風 若中

さき梅、梅のくせやさきうまの葉 後羽

梅のくせやさきうまの葉の葉 比叢

葉のくせやさきうまの葉の葉 孝順

蓮のくせやさきうまの葉の葉 孝一

新雪の上風のあつたやさきうまの葉 若子

葉のくせやさきうまの葉の葉 梅下

増あつた葉のくせやさきうまの葉 雪山

葉のくせやさきうまの葉の葉 雪山





田舎の草花のよきものなりて草田は  
 沼の名はさもまのえたる草田うね  
 松風や喜田より秋はまほひしき  
 縁垣の枯木もえたる喜田うね  
 朝もけりや只まほしと田のさき  
 清きうききある風の見れ草田は  
 云と日まは風も通るま草田うね  
 クよのりも草花のよきものなり  
 田んぼ取りも草花のよきものなり  
 休る日を余きまよふ婦の田んぼ  
 田んぼとりも草花のよきものなり

祐之  
 龜持  
 養山  
 士前  
 兵部  
 赤國  
 一義  
 雪島  
 山古  
 某史  
 宗里

夏廿八

葉の花

葉のむきを吹きのりて空の風

徐蓮

それとて葉は清きものなりて根のつらき

悟旌

葉のむきや見ゆ言はれどもよきものなり

對井

葉のよ

葉はや何れもよきものなり

月杵

うき叶の清きものなりて月日のれ

名山

浮叶や思ふもあめけぬものなり

井水

夏叶

夏叶や夏の清きものなり

水囊

叶の皮

葉の皮や葉も清きものなり

花海

ちりや雪も清きものなり

雪山

夏葉

夏葉は清きものなり

車扇

葉掃

日さのりや清きものなり

素削

うらやめを自慢馬より漆のき  
思ひ込く梅よぬきもくうはしう乳  
桃悦  
翠山

子  
観

啼き空よりうらやめを  
鳴りや山へもよもき  
見たり啼き空のつりや  
おの雲をりくく一羽  
詠ふあくや雲錦の町  
二夜三夜時もたの  
美湖  
完伍  
著載  
見外  
若子  
龜得

夏廿九

あつむすのうへあり  
節よよの波やまうら  
見たりや山へもよも  
梅をや月をききあ  
空のつりも一羽  
新けりや雲錦一  
雲錦のうらやめ  
あつ啼き空より  
梅ありと云く  
時をなくや村  
眼をともく  
牛鳩  
上  
山  
心  
山古  
前  
玉  
徐  
由  
儿



杜鵑啼くやさくらりの地をき山  
 木更のこゝへ啼けり入りぬたきき  
 きの雨よこのき編や 木とくき  
 雲あつたきあるきやをきき  
 灯も成るうらうらつ比や 詠一  
 山より居るきこのぬ月のあり杜  
 花とくきききや 木更のきき  
 蜀道穿てりききききききき  
 近きとてきききききききき  
 山口へ入りききききききき  
 木更のきききききききき

文種 市並 秋里 比叢 松夢 夷玉 車扇 松民 精中 佳岳

夏三十

よききききききききききき  
 啼ぬ見るとききききききき  
 耳より際あるきききききき  
 多めのきききききききき  
 吟あそびきききききききき  
 木とくききききききききき  
 山風とてきききききききき  
 下ちきききききききききき  
 啼けりききききききききき  
 詠らの木を隈もききききき  
 時を待てりききききききき

菓種 一眺 五岳 梅友 高南 巾凡 車遊 居 乃鳴 聖東

桑柘をささげしむねのやむきき  
種好  
一 眺  
水 菴

采子香 志のしりぞき 啼こころを母を采子香 古 中 菴  
啼こころを母を采子香 古 中 菴  
水菴やちちのしりぞきをいんふを  
一 止  
雪のふるり山ふりや 采子香 永 承  
少けとまのしりぞきをいんふを  
小 雪  
甲斐の根の地味は 悔をを 采子香 不 二 丸

▲夏世一

麓 麓  
霜つ重唱先り舞やのんふ香 往 菴  
地くくせしこころを母を采子香 素 松  
ふとちのふとちを母を采子香 双 園  
木より木よ木よのしりぞきをいんふを 山 界  
樹くくくも 麓の志のしりぞきをいんふを 雪 島  
よりけりや日暮を母を采子香 舟 来  
麓麓や 麓麓やあるふとちを母を采子香 百 賀  
よりきりや 麓麓の志のしりぞきをいんふを 文 志  
よりきりや 麓麓の志のしりぞきをいんふを 神 江  
麓麓や 麓麓を母を采子香 兔 月  
麓麓や 麓麓を母を采子香 出 産

夜ふも巻のよけあゝ岸やけりこ子  
雨の目もたんと生るる情けけりこ子  
節のせよのうらよきとやけりこ子

老

老 号 嘆きやあゝ時とて先を啼  
いよいよの老を 深山よそとて危  
老の老けりあゆみのさう那

詠

詠 妻 川せとや舟あまると人の居ぬ  
湖舟

夏世二

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
川せとや波のよとてぬ杭の先  
二日月の新あゝとて幅 幅 幅 幅  
幅幅やあゝとてとてとてとてとて  
うらやうや物のあはれとてとてとて  
幅幅や若松の口はとてとて 風  
うらやうやとてとてとてとてとて  
幅幅のけりとてとてとてとてとて  
幅の子やあゆいゆとてとてとてとて  
幅の子は若きとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとて  
幅の子はとてとてとてとてとてとて

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
梅 粟 山 山 山 山 山 山 山 山

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

幅

幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅 幅  
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山



漸きくくまらるの上ふそくれ  
 夜半きこふ音はくちあつし船  
 きて事なきそくまらるしゆ  
 利根川やあそりくしと戦き  
 芦原のあつちをさるるつら  
 宵の静あそりもあきそく  
 旅のきく漸田のそくもそく  
 神の静きそくあそりあつち  
 遠きそくそくあそりあつち  
 浪州のそくあそりあつち  
 うそ風よあそりあつち

如月 佳長 歌多 家系 時彦 至法 中岐権 公成 水吉

夏廿四

蝶

下り坂のあつちそく初蝶  
 井のあつちそくそくい魚や蝶  
 せき峰や月も指しあつち  
 板倉家のあつちそくあそり  
 蝶あつちや海をよつち馬の足  
 体そくのあつちそく蝶あつち  
 以あつちそく風あつちそく  
 海をけりあつちそくあそり  
 ぬきそくあつちそくあつち

在尔 古月人 蓬く 古棠 嵐生 水彦 龜持 号福 系里 曹

場

毛

堂

虫

蝶

故 垣 境

性 序

|                      |   |     |
|----------------------|---|-----|
| 阿のつてよはき 志城をせり 故は     | 干 | 山   |
| 日よまき 業やまらり ころろ       | 六 | 鹿   |
| 遠せせし あり 日のさき ころろ     | 一 | 川   |
| 休よまき 遠き あり 故は        | 一 | 囊   |
| けいよまき あり 垣 一         | 一 | 月   |
| 形うよまき 垣より 仕業は        | 一 | 字   |
| はらり 業の 故は 枝 性        | 水 | 裁   |
| はらり あり 枝の 性          | 振 | 象   |
| 田のころろ 枝よまき 性うま       | 系 | 重   |
| 系よまき 舟よ 故の あり 雨 あり 丸 | 多 | の 女 |

夏世

|                    |   |   |
|--------------------|---|---|
| 菽陽や あり 一 故の あり     | 波 | 砂 |
| 考の 故や 甲子を つける ときより | 如 | 白 |
| 出ま あり 故の あり とき あり  | 一 | 杯 |
| 子よ あり 故の あり あり     | 葉 | 鮮 |
| 取よ まき あり 故の あり     | 佳 | 長 |
| 人も あり 門の あり あり     | 鹿 | 子 |
| 月よ あり 故の あり あり     | 物 | 時 |
| 厚の 故を あり あり        | 有 | 空 |
| 故よ あり あり あり        | 水 | 囊 |
| 故の 故や 故を あり あり     | 水 | 友 |

ちせりちせり蚊の唇もむや雨の刺  
 蚊の舌もよほく、何ふ戸のこり形  
 乙々の蚊や吹くちまらよあるとまら  
 蚊柱の中よ伏家の戸をあきりぬ  
 蚊のうきき、家や吹下る所つとき  
 蚊や、大や山の大事もそそり  
 ちまら、ちまら、蚊をむ蚊をむ  
 蚊や、葉手も、蚊のうきとさくせらり  
 山里や雨よ蚊をうきをきりかく  
 蚊や、やや蚊のうきをきりかく  
 ちまら、ちまら、ちまら、ちまら

山 山 山 山  
 山 山 山 山  
 山 山 山 山  
 山 山 山 山  
 山 山 山 山

暮 ちまら、ちまら、ちまら、ちまら  
 と、ちまら、ちまら、ちまら、ちまら  
 此二日、ちまら、ちまら、ちまら、ちまら  
 蚊ふら、ちまら、ちまら、ちまら、ちまら  
 蚊ふら、ちまら、ちまら、ちまら、ちまら  
 蚊ふら、ちまら、ちまら、ちまら、ちまら

子 子 子 子  
 子 子 子 子  
 子 子 子 子  
 子 子 子 子  
 子 子 子 子

子 子 子 子  
 子 子 子 子  
 子 子 子 子  
 子 子 子 子  
 子 子 子 子

水馬虫

虫たれつとつとまうらまみまはし  
眼まみくはるる此やふまま

嘉山子

青

青のつゆのくうまう日暮うれ  
青のつゆのつゆりり山のうら

青

道

道つゆのまやまうまのま  
道つゆのまやまうまのま

道

難

難しくとあまうまや難の呼吸  
夕飯の難つきまうまの難

難

夏世

ゆの衣の痛まうら 難のつゆ

蓮く

珠散れつとまうら 難のつゆ

花紅

難のつゆの痛まうら 難のつゆ

素心

ゆのつゆの痛まうら 難のつゆ

水囊

難のつゆの痛まうら 難のつゆ

青葉

難のつゆの痛まうら 難のつゆ

名山

難のつゆの痛まうら 難のつゆ

暖月

難のつゆの痛まうら 難のつゆ

都風

難のつゆの痛まうら 難のつゆ

智野

難のつゆの痛まうら 難のつゆ

良の

難のつゆの痛まうら 難のつゆ

良の



水 晴

暮らうとく入るやのき水晴うれ 龍 夢  
 惟多きとくまきまつよ水晴も近き風 士 家  
 吹あきつらとや細きもまなく水晴 飲 口  
 叶ふうかくせ海へく帰る水晴 美 芸  
 風呂の湯も流しと後や雪くまふ未 世 負  
 二層よとめきりしと知る水晴うれ 波 崎  
 叶ふ風水晴もまなくありとあがり 如 白  
 折ふりの風水晴もまなくありとあがり 如 民  
 まらうとく入るやのき水晴うれ 龍 夢  
 まらうとく入るやのき水晴うれ 龍 夢  
 まらうとく入るやのき水晴うれ 龍 夢  
 まらうとく入るやのき水晴うれ 龍 夢  
 まらうとく入るやのき水晴うれ 龍 夢

夏世八

船 船

下京、音のりく文うくあく水 船 一 船  
 舟の灯の細きまきまつよ水晴のれ 一 舟  
 まらうとく入るやのき水晴うれ 六 櫻  
 庭まらうとく入るやのき水晴うれ 六 櫻  
 旅の遠屋のうらと田畑も帰るよ未 六 櫻  
 船綱よこのせうと雲の、まらうとく 龍 舟  
 芦浪よほくく海をくや船のり 龍 舟  
 水引よまらうとく入るや船のり 龍 舟  
 舟のりよ成るよ未まき水晴うれ 龍 舟  
 舟のりよ成るよ未まき水晴うれ 龍 舟  
 舟のりよ成るよ未まき水晴うれ 龍 舟  
 舟のりよ成るよ未まき水晴うれ 龍 舟  
 舟のりよ成るよ未まき水晴うれ 龍 舟



照

射

おんくさくさくさきあふきさきさき  
さきあふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき

射

射

夏四十

火

燬

あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき

燬

燬

川

特

あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき  
あふきさきあふきさき

特

特







出さるものも、清く甘く、古来の  
汁、唐のときより、やがて汁、  
汁、唐のときより、やがて汁、  
汁、唐のときより、やがて汁、  
汁、唐のときより、やがて汁、  
汁、唐のときより、やがて汁、

沖 龍 人 救 命 湯 也 持 行 其 湯 沖 龍 湯 蓬 菜 湯

沖 龍 湯 一 口 飲 之 善 止 毒 氣 也 名 曰 龍 湯 湯 也

沖 龍 湯 一 口 飲 之 善 止 毒 氣 也 名 曰 龍 湯 湯 也

沖 龍 湯 一 口 飲 之 善 止 毒 氣 也 名 曰 龍 湯 湯 也

麻 地 酒 其 酒 之 味 如 沖 龍 湯 也 名 曰 麻 地 酒 湯 也

麻 地 酒 其 酒 之 味 如 沖 龍 湯 也 名 曰 麻 地 酒 湯 也  
麻 地 酒 其 酒 之 味 如 沖 龍 湯 也 名 曰 麻 地 酒 湯 也  
麻 地 酒 其 酒 之 味 如 沖 龍 湯 也 名 曰 麻 地 酒 湯 也

葛 水 葛 根 煎 之 水 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

葛 水 湯 其 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也

道明寺 井 水 之 味 甚 甘 也 井 水 之 味 甚 甘 也 名 曰 葛 水 湯 也





水香を写すは花の香も友も  
 空をよすは城を種く友も  
 龍のゆくを水取ゆく友も  
 灌佛やふも友のの影も  
 灌佛やあつて来ると同  
 灌仏やをるもの一のまは白  
 佛生を空の世は仏も生を  
 魂をくも友ののあ一佛生  
 方便も只あうのく一佛生  
 花の香もくはのあくは  
 空をよすは城を種く友も  
 龍のゆくを水取ゆく友も  
 灌佛やふも友のの影も  
 灌佛やあつて来ると同  
 灌仏やをるもの一のまは白  
 佛生を空の世は仏も生を  
 魂をくも友ののあ一佛生  
 方便も只あうのく一佛生  
 花の香もくはのあくは

一日のくは空もくは空も  
 空をよすは城を種く友も  
 龍のゆくを水取ゆく友も  
 灌佛やふも友のの影も  
 灌佛やあつて来ると同  
 灌仏やをるもの一のまは白  
 佛生を空の世は仏も生を  
 魂をくも友ののあ一佛生  
 方便も只あうのく一佛生  
 花の香もくはのあくは  
 空をよすは城を種く友も  
 龍のゆくを水取ゆく友も  
 灌佛やふも友のの影も  
 灌佛やあつて来ると同  
 灌仏やをるもの一のまは白  
 佛生を空の世は仏も生を  
 魂をくも友ののあ一佛生  
 方便も只あうのく一佛生  
 花の香もくはのあくは

夏 糸 汗の臭い、髪のはがれ、赤ら顔、  
寝不足、食欲不振、  
多汗、  
この季節、  
夏 糸 汗の臭い、髪のはがれ、  
赤ら顔、  
寝不足、食欲不振、  
多汗、

夏 糸 汗

人の心をなやませよ  
夏 糸 汗の臭い、髪のはがれ、  
赤ら顔、寝不足、食欲不振、  
多汗、

雨乞也人々其まをむきまをむき  
 雨乞しや夜更なるまをむき  
 山王祭 山王の祭や祭の人の  
 神水 神水や祭の指のまをむき  
 非切 非切や甲もまをむき  
 祇園会 祇園会やふらふらまをむき  
 祇園會 祇園會や井も心あるまをむき

舟 舟の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟

舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟

舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟

夏四六

祇園会 祇園会 人の山王祭  
 祇園會 祇園會 井も心ある  
 舟切 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切 舟切の舟

舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟

舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟

舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟  
 舟切 舟切の舟

生駒の  
 納涼  
 御  
 後

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 麻 | 流 | 天 | 氣 | の | あ | る | 麻 | 海 | 古 | 麦 | 菜 |
| 川 | 社 | 丘 | の | 麓 | の | 下 | の | 上 | の | 外 | 子 |
| 茅 | の | 籜 | の | 籜 | の | 籜 | の | 籜 | の | 籜 | の |
| 鳥 | さ | る | 鳥 | の | 鳥 | の | 鳥 | の | 鳥 | の | 鳥 |
| 河 | を | さ | る | 河 | を | さ | る | 河 | を | さ | る |
| 夕 | 風 | の | 夕 | 風 | の | 夕 | 風 | の | 夕 | 風 | の |
| 暮 | 人 | の | 暮 | 人 | の | 暮 | 人 | の | 暮 | 人 | の |

水囊 水囊 水囊 水囊 水囊 水囊 水囊 水囊 水囊 水囊 水囊 水囊

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 結 | 大 | 系 | 生 | 結 | の | 系 | 生 | 結 | の | 系 | 生 |
| 海 | を | 東 | る | 海 | を | 東 | る | 海 | を | 東 | る |
| 茅 | の | 茅 | の | 茅 | の | 茅 | の | 茅 | の | 茅 | の |
| 日 | を | 日 | を | 日 | を | 日 | を | 日 | を | 日 | を |
| 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を |
| 雨 | を | 雨 | を | 雨 | を | 雨 | を | 雨 | を | 雨 | を |
| 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を |
| 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を |
| 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を |
| 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を |
| 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を | 山 | を |

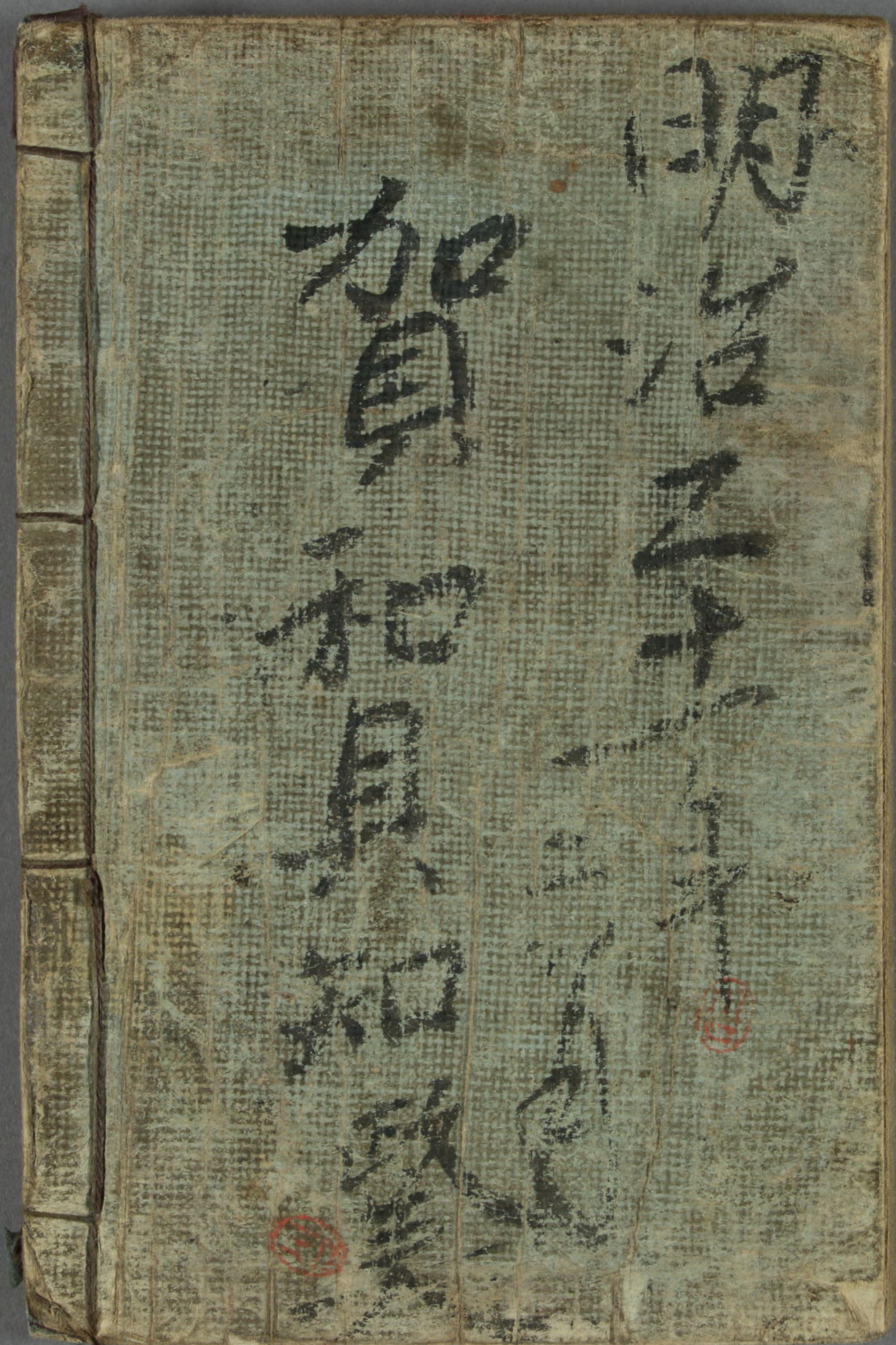
|                                  |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |                      |
|----------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 神崎の陣                             | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    |
| 神崎の陣の...<br>神崎の陣の...<br>神崎の陣の... | 巖...<br>巖...<br>巖... | 巖...<br>巖...<br>巖... | 巖...<br>巖...<br>巖... | 巖...<br>巖...<br>巖... | 巖...<br>巖...<br>巖... | 巖...<br>巖...<br>巖... | 巖...<br>巖...<br>巖... | 巖...<br>巖...<br>巖... | 巖...<br>巖...<br>巖... |
|                                  | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    | 巖                    |

夏五十年終

夏見運舟の事

字 銀山

川以...  
川以...  
川以...



明倫彙編

家範

Red circular seal

Red circular seal